

創業100周年記念誌



丸か建設株式会社

 丸か建設株式会社





Anniversary — [1924-2024] — 100周年記念誌

㊦ 丸か建設株式会社

信頼される安心と確かなクオリティ
地域の思いを形に変えて

創業は一〇〇年前の大正十三年。

当時より地域のために。

私たちの持ち得るあらゆる技術を駆使し、

地域からの確かな信頼を得るという

熱い思いを絶やすことなく、

堅実な歩みを続けてまいりました。

「丸か建設」は、県内外を問わず、

みなさまの期待に応えるよう

これからも尽力してまいります。

 丸か建設株式会社



100年企業

100年紡いだ結束を 未来へつなぐ

—— 脈々と流れる創業者精神「大和」 ——

経営目標

「地球の資源を大切にし、確かな技術と品質で社会に貢献します」

社訓

- 一、我々は、大和の精神の下、
個々に自信と責任を持ち、
全員一丸となって急速に変化する、
地域経済及び社会環境への、貢献を目指す。
- 二、我々は、いかなる場合においても、
人命尊重を第一とし、
自然災害や緊急災害の発生時には、
個々の得意分野を発揮して、
迅速かつ適切な対応を常に心がける。
- 三、我々は、「安全・技術・コスト管理」への
向上心を常に持ち、
コンプライアンスを重視し、
社会環境に対応した、適切な職場環境と、
福利厚生の実施した、組織づくりを目指す。



丸か建設株式会社は令和6年3月に創業100周年を迎えます。これもひとえに協力会社の皆様はじめ、当社とともに歩み、支えてくださった皆様のおかげであり、心より感謝申し上げます。

このたび、創業100周年の節目を機に、当社が歩んでまいりました軌跡を振り返り、後世につなげていくため、記念誌を編纂いたしました。

編纂にあたり伊藤信太郎衆議院議員より100周年にあたってのご寄稿、小野寺五典衆議院議員、村井嘉浩宮城県知事、千葉嘉春宮城県建設業協会会長より、ご丁寧なるご祝辞を頂戴いたしましたこと、心より感謝申し上げます次第でございます。

大正13年に祖父勘治が創業し、その妻けん、先代一男、そして私の四代で100年間、想いを紡いで参りました。この想いを後世に引き継いでいくことが私の使命であると考えております。

数多くの困難を乗り越え今があります。私が社長を引き継いでも、バブル崩壊後の建設業氷河期と言われる時代がありました。多くの同業者が倒産する厳しい中、社員が一丸となって会社を支えてくれました。

近年も岩手・宮城内陸地震、東日本大震災をはじめ、度重なるゲリラ豪雨による大雨災害など自然災害の発生時には、社員の献身的な働きに助けられました。社は「大和」のもと集う社員を誇りに思います。

現在も私ども建設業を取り巻く環境は、担い手不足や働き方改革、頻発する自然災害など、対処しなければならない課題が山積しており、地域の守り手、地域の町医者としての期待も高まっています。それらをかなえる地域のリーディングカンパニーとしてたゆまぬ努力を続けてまいります。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、発刊のご挨拶とさせていただきます。

代表取締役

佐々木 浩章





衆議院議員

伊藤 信太郎

このたび、丸か建設株式会社様が創業100周年を迎えられますこと、心よりお慶び申し上げます。

大正13年に木材販売業として創業された貴社が、一世紀という長きにわたり事業を継続してこられたという輝かしい実績を見ると、創業者である佐々木勘治様に始まる歴代の継承者の皆様はもとより、数多くの社員の皆様の並々ならぬご努力があったことと拝察致しますれば、ただただ敬服の念に堪えません。

貴社が歩んでこられた100年の間には、第二次世界大戦をはじめ大きな国難に直面した時代もありました。近年では、あの痛ましい東日本大震災が記憶に新しいところでありますが、その後も、豪雨、豪雪などの自然災害は頻発しております。

そのような各場面において、貴社は常に復旧・復興のため、大きな役割を果たしてこられました。高い技術力と熱意ある社員の皆様の有する貴社の存在は、加美郡地域のみならず、宮城県内外においても大きな力となっていることは、多くの皆様の感ずるところかと思われます。

また、私個人といたしましては、貴社とのご縁はたいへん古いものがございまして、私の父が、貴社初代会長の佐々木一男様と、小学校、旧制中学校における同級生であつたご縁にはじまり、親子二代にわたりお付き合いさせて頂いております。

現在、私も、父の志を継ぎ、衆議院議員として国政において働かせて頂いておりますが、現代表取締役であります浩章氏とは、折にふれお付き合いを続けさせて頂いており、地元が抱える諸課題やこの国の未来について、多々貴重なご意見を頂戴している次第であります。

この創業100年という節目を良き契機として、新しい時代に即した挑戦を続ける貴社が、益々ご発展されますことをご祈念申し上げますと共に、これからも、人々の安心・安全を守る要として、また地域経済をけん引するリーディングカンパニーとしてご活躍されますことを心よりご期待致しております。

祝辞



衆議院議員

小野寺 五典

丸か建設株式会社様、このたびは創業100周年誠におめでとうございます。佐々木浩章社長をはじめ、役員、従業員の皆様にとりまして喜びもひとしおのことと思います。また、記念誌を発行するにあたり、ご挨拶の機会をいただきましたこと、誠にありがとうございます。

さて、貴社は、大正13年に佐々木材木店として創業され、昭和28年には現在の丸か建設株式会社を設立されました。当時より地域のために、持ち得るあらゆる技術を駆使し、地域からの確かな信頼を得るといふ熱い思いを絶やすことなく、堅実な歩みを続けられ、正に地域を支える企業として大きく成長してこられました。

ひとことで100年と言いましても、その道のりは決して平坦なものばかりではなかったものと推察いたします。そういった時代を経て今日を迎えられましたことは、これまで貴社の発展に関わってこられた多くの皆様のお支えがあつてこそのことだと思いますので、私からも感謝を申し上げるところでございます。

平成23年に発生した東日本大震災時には、発災直後より道路などの復旧や燃料供給・輸送に従事していただき、復興への取り組みに対しましても多大なご尽力をいただいております。一方、社会貢献への取り組みにつきましても、ボランティア活動や地域支援・地域の人材育成など、積極的に関わっていただいております。

今後とも、地域のみなさんにとって必要な社会生活基盤づくりの中心的な役割を担っていただきながら、激甚化している災害から地域住民の安全・安心を守っていただきますようよろしくお願い申し上げます。私も「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を推進し、災害に強い地域づくりへとつなげられるよう、国政の場でしっかりと努力してまいります。

むすびに、丸か建設株式会社様の今後益々のご隆盛と関係者皆様のご健勝を心からお祈り申し上げ、お祝いのことばとさせていただきます。

祝辞



宮城県知事
村井 嘉浩

丸か建設株式会社様は、大正13年に創業、昭和28年に法人を設立して以来、地域経済を牽引する総合建設会社に成長され、このたび、記念すべき100周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。また、貴社は、いつの時代においても、変動する社会情勢を社員一丸となって乗り越えられ、長きにわたり、地域に根ざした建設会社として社会貢献活動に積極的に取り組んでこられましたことに、深く敬意を表する次第です。

宮城県は、昨年、県政150周年を迎えました。この間、地震や豪雨など甚大な災害に幾度も見舞われ、深刻な被害が発生いたしました。建設産業の皆様から多大なご尽力をいただきながら、復旧・復興事業を進めてまいりました。貴社におかれましても、災害時には、率先して早期復旧にご協力いただき、地域の方々の安全・安心な暮らしにご尽力いただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

さて、県では、令和3年3月に「『地域の守り手』として宮城の県土づくりを担う持続可能な建設産業」を基本理念とした「第3期みやぎ建設産業振興プラン」を策定いたしました。県内の建設産業が、生産性を向上させ、経営を安定させながら、社会資本の整備・維持管理の担い手として、将来にわたって発展していけるよう、魅力ある建設産業のイメージアップに向けた戦略的広報の推進、働き方改革による建設工事従事者の処遇や労働環境の改善、建設現場の省力化・効率化による生産性の向上など様々な支援施策を展開していくこととしております。

現在の建設産業を取り巻く現状は、人口減少や建設投資額の減少、物価高騰など厳しい環境にあります。貴社におかれましては、これまで各種公共工事等を数多く手がけてこられたその優れた技術力と高い信頼のもと、今後も、次世代を担う建設技術者を育み、地域とともに歩まれながら、次の100年に向けて、更にご活躍されますことをご期待申し上げます。

結びに、貴社のますますのご隆盛並びに関係者の皆様のご健勝を祈念いたしまして、記念誌発刊に寄せての祝辞といたします。

祝辞



一般社団法人 宮城県建設業協会 会長
千葉 嘉春

丸か建設株式会社様が創業100周年を迎えられ、記念誌が発刊されますことに心からお慶び申し上げます。

貴社は、四代目となる現社長である佐々木浩章様の祖父佐々木勘治様・祖母佐々木けん様により、旧小野田町の「小野田丸か」の木材部門を引継ぎ、建築工事請負業を新たに加え、旧中新田町に「佐々木材木店」として創業されて以来事業を継続。終戦後には三代目である佐々木一男様の満州からの復員を機に、土木工事請負業を加えた現在の「丸か建設株式会社」を設立。目まぐるしく変化する社会情勢の中で、歴代会長、社長様を中心に社員の力強い団結と協調の下、幾多の困難を乗り越えられ、常に地域に根ざした総合建設業として社業並びに業界の発展向上に全力を傾注されました。さらには、地域・顧客の全幅の信頼を受け、数多くの良質な構造物の施工に携わるなど、地元建設業者でも有数の企業へと確固たる地位を築かれておられます。

気候変動などによる激甚化した自然災害が頻発傾向にあり、宮城県内でも「平成20年岩手・宮城内陸地震」や「平成23年3.11東日本大震災」、「平成27年関東・東北豪雨」、「令和元年東日本台風」、「令和4年7月豪雨」など、大規模災害が発生する中で、貴社は様々な業種の工事への対応技術と災害対応能力を有する強みをいかし、過酷な環境下においても、地域並びに住民の安全・安心を第一に、その都度、地域建設業としての大きな使命感を持って災害対応に当たられ、常に先頭に立ってご奮闘賜りました。このような仲間がいることは心強く、誇りに感じております。

また、激動の時代において、数多くの困難な課題に積極果敢に取り組まれ、宮城県建設業界の振興発展に大きく貢献され、今日の経営基盤を築かれた功績に対し、改めて深く感謝と敬意を表する次第であります。

このたびの輝かしい創業100周年を契機として、貴社には引き続き地域から頼られる地域建設業としてサステナブルな経営で、やりがいや誇りと魅力ある産業づくりに向けた先導的な取り組みに期待するとともに、貴社のますますのご発展を祈念いたしまして、発刊に寄せての祝辞といたします。

目 次

発刊のご挨拶	6
100周年に寄せて	8
祝辞	9

特集

◆歴史編

100年にわたる社業のあゆみと歴代社長の指針・業績	14
100年企業グラフィティ	22

◆現代編

鼎談／「丸か」が求める大和の精神と変化への対応力	36
『100年企業』を支えるパイオニア	44
災害復旧復興活動	50
『地域の町医者』としてのCSR活動	54
『100年企業』丸か建設グループ	57

◆未来編

丸か建設若手座談会／「次なる時代を見据え、未来へ」	60
丸か建設100周年記念事業Ⅰ・Ⅱ	68

◆資料編

会社概要・経営スタッフ	74
業務組織図	76
丸か建設の軌跡と思い出のアルバム	78
代表施工作品／建築	84
代表施工作品／土木	90
認定・認証書	98

あとがき	99
------	----

特集 ◆ 歴史編

Special Feature History

材木店として創業、
激動の大正、昭和を乗り越え礎を築く

創業者・初代 佐々木 勘治



創業者の初代社長佐々木勘治が、旧小野田町で旅館業、金物店、木材店と幅広く事業を営む商家である「小野田丸か」の屋号をもつ実家から、妻けんとの結婚を機に中新田町西町に土地を取得し、木材部を独立させた。大正13年3月に「②佐々木材木店」を創業したことに社業が始まる。大正13年1月には長男一男が誕生している。

勘治社長は、当時としては大変珍しい帝國陸軍が採用していたオートバイ「陸王」を駆り、木材調達のため、近郊の山々を積極的に見て回り、買い付けしたエピソードが残っている。

その後、軍の隊舎や学校などの公共施設への木材供給を行っていたことをきっかけに建築の依頼も多くなり、大工をとりまとめていくなかで建築請負の道を歩み始めることとなる。さらに、度重なる河川洪水被害の改修においても、当時の工法では欠かせないのが石材と木材の材料収集で、木材調達の任に当たったことから、土木事業にも携わる機会が増えていくこととなった。

初代勘治社長は、聖徳太子の「和を以て尊しと為す」と諭した語源を引用し、社是として「大和」を掲げた。社内外において争いのない家族的なまとまりのある会

社づくりを目指した。社員一人ひとりを大切にする社訓のもと、いざ問題発生時には全社一丸で対応できる社内風土が醸成され、「丸か」を名乗ることに誇りを持ち、高い評価が得られるよう、創業者の心意気を活かす社風が今も堅持されている。



当時の中新田町西町の街並みと初午祭り（中嶋忠一撮影）

突然の事業承継、
機知に富む女傑が経営の中軸を担う

二代 佐々木 けん



初代勘治社長が37歳の若さで病没し、昭和14年2月、勘治社長の妻けんが二代目社長として、子ども4人を抱えながら事業を継承した。二代けん社長は、現加美農業高等学校（旧加美蚕業学校）を卒業後、戦時中に地元広原小学校の代用教員を勤めたほか政治活動にも熱心で、地元出身の代議士であった本間俊一や伊藤宗一郎のために寝る間を惜しんで支援し、機知に富む女傑として世に知れ渡っていた。

勘治社長の急逝で苦境にあった二代けん社長を支えた有力な支援者が佐々木正治（しょうじ）と齋藤十五郎（とうごろう）の両氏であった。佐々木正治氏は近所

で自転車店を経営しており、自ら運転する初代勘治が遺したバイク「陸王」のサイドカーにけんを乗せ、勘治が行ってきた山回りと木材購入を手伝っていた。齋藤十五郎氏は県内有数の馬喰で、伐採した木材の運搬のため馬車を手配したが、その車列が長蛇のごときと例えられるほどで、繁盛の様子がうかがえる。

今日の丸か建設があるのは佐々木正治と齋藤十五郎両氏の献身的な支援の賜物であり、二人は「丸かの大恩人」として語り継がれている。



佐々木正治氏



齋藤十五郎氏



昭和10年代の②佐々木材木店

戦後復興、土木建築請負業の確立と
経営近代化に尽力



三軒橋浅間酒造店上様式(中列右から3人目一男社長)

三代一男社長は日本大学に合格するものの戦争で徴兵され、大連で終戦を迎える。昭和21年5月に復員後、事業を継承し、昭和22年4月に土木建築請負業を併設して知事登録を取得した。

当時は食事のままならない時代で、一男社長の自宅ではお手伝い3人を雇い、従業員に朝食を振舞って戦後復興の現場に送り出すのが日課だった。昭和28年3月に⑥佐々木材木店を丸か建設株式会社に組織変更した。

その後、有能な人材を集め、ダム工事などの大型工事も請け負うようになり、社業が発展を遂げるとともに経営の近代化を図っていく。

一男社長の持論は「必要なものは買え、欲しいものは買わない」、「製品は早く、安く、良く」、「業者は役所に弱い。役所は政治に弱い。政治は業者に弱い。議員、役所、業者の関係はじゃんけんと同じで回り回ってくる」などが伝えられており、現在の社員の戒めとなっている。「お前たちは必ず守るから、

三代

佐々木 一男

安心して働け」と言うのが口癖で、面倒見の良いカリスマ性をもつ経営者として従業員を鼓舞した。

一男社長の妻とし子は、二代けん社長を助けた大恩人齋藤十五郎氏の次女で面倒見の良い気立てから多くの町民から慕われた。一男社長の小・中学校時代の同級生であった伊藤宗一郎元衆議院議長とともに、齋藤十五郎氏は一男社長を手厚く支援したという。

ところが、順風満帆と思われた昭和58年8月に一男社長が脳梗塞で倒れてしまう。そこで昭和59年9月に招聘されたのが、建設省を経て鉄建建設で経験を積んだ齋藤十五郎氏の長男・齋藤



伊藤宗一郎元衆議院議長と交友を結ぶ一男社長 平成8年11月



備氏であった。齋藤備氏は一男社長に代わり、十五郎氏譲りの大きな人間性と胆力で予算、原価管理・現場パトロールをはじめ営業に至るまで幅広く手腕を発揮。丸か近代化の中興の祖としての役割を担った。特に丸かの原価管理を定着させた功労者として讃えられている。

一男社長は昭和29年7月の宮城県建設業協会大崎支部設立以来、長年支部役員をつとめており、



齋藤 備氏

昭和45年5月から約20年間、協会本部の常任理事の要職にあった。

平成6年には地元土木建築請負業の確立と経営の近代化に尽力した功績で勲五等双光旭日章の榮に浴している。

社は「大和」をつなぎ、
人材育成と結束力で
一〇〇年企業に成長



全社員集合写真(旧社屋前)

四代

佐々木 浩章



四代浩章社長は昭和61年東北学院大学を卒業後鹿島建設に入り、昭和62年10月に丸か建設に入社する。当初、取締役社長付、その後常務となり会社の経営に必要なことを一男社長より直接指導を受け、平成8年6月、急激に変化する社会情勢に対応すべく33歳で社長に就任する。

浩章社長は、創業当時から連綿として引き継がれてきた社は「大和」の精神で、家族的でまとまりのある風通しの良い社風を堅持するとともに、齋藤備氏の指導薫陶を受けて将来に向け、希望の持てる組織づくりと技術革新の醸成につとめた。

令和5年1月には創業100周年記念事業の一環として、旧社屋北側に新社屋を建設、地球環境に配慮した次世代型オフィス空間として完成させた。

経営者としては、平成初期の建設産業氷河期の厳しい時代を経験している。当時は常識を遥かに超えたダンピングが横行し、倒産が相次ぎ、大崎支部63社の会員が半減するという厳しさであったが、社をあげて危機感をもって対応し、難局を乗り越えることができた。丸か特有の家族的なまとまりと、目標に向かって一致団結する結束力、浩章社長が心血を注いだ人材育成が効果を生んだ結果

ともいえる。

さらには、自然災害が多発する地域特性から、地震や豪雨への応急・復旧対応や鳥インフル、豚熱などへの緊急対応と東日本大震災の復旧復興活動で培った知見を活かし、24時間稼働の緊急対応ノウハウをもつ「地域の守り手」として使命と責任を果たしている。

特に、建設業の「地域の町医者」としての役割と要請に応えるため、数多くの公共工事を施工、ボランティア活動も展開しているほか、地域貢献の一環として新社屋に緊急避難対応のスペースも確保している。

公共工事への取り組みでは、得意とする治山、林道工事をはじめ、地元総合建設業として数少ないダムやトンネル工事を手掛けている実績を活かし、それらの特殊な技術を引き継いでいく技術者の確保につとめ、人材の育成・登用にも力を入れている。

浩章社長は宮城県建設業協会大崎支部の役員を長年つとめ、現在副支部長の重責にある。平成18年から協会本部理事として在任中で、宮城県森林土木建設業協会会長の要職も担っている。

新しい力を結集し経営力強化、
丸か建設の次代を担う



経営力強化委員会の一暢常務(左)と功真取締役(右)

100周年を迎える令和6年に次期五代社長に佐々木一暢常務が就任する。現浩章社長の長男で、東北学院大学を卒業後、鹿島建設に入社。女川町の震災復興現場で約4年間作業所経験を重ね、平成31年1月から丸か建設に入社した。現在、常務取締役として事業承継に向け経営改革・改善に邁進している。

現浩章社長の二男の功真取締役は、仙台育英学園高等学校、東海大学のラグビー部に在籍。日本トップレベルでラグビー一筋に取り組んだ強者。東海大学卒業後マルカ商事を経て、平成30年4月1日に丸か建設に入社。営業を担当し、一暢常務の右腕として力量発揮が期待され、一暢常務が主催する様々なプロジェクトの要としてサポートする頼もしい存在である。

一暢常務は創業100周年記念事業のプロジェクトリーダーとして企画・運営の先頭に立ち、事業の柱として「人事評価制度・給与制度改革」「新社屋建設」を掲げた。一大事業である「新社屋建設」では

五代

佐々木 一暢



「地球にやさしい、人にやさしい、風通しの良い、社員がひとつとなれるシンボル施設」をコンセプトに、避難所機能をもつ街のランドマークを目指して完成させている。

一暢常務が新たな未来を見据えた取り組みの中軸となるのが「経営力強化委員会」で、次長以下30代から40代の中堅社員を中心に、各部署から少数精鋭の社員を集め、将来に向けての経営方針や経営課題、改革・改善のテーマなどで定期的に意見を交換している。

同委員会では専門家の七十七リサーチ&コンサルティングの支援のもと、100周年記念事業の第1の柱である人事評価制度、給与制度の見直しに着手。アットホームな社風を守りながらも時流に沿った改革に当たった。ここでは、社是「大和」の再定義により、「大輪」「家族」「対話」「調和」の4つのキーワードを抽出し、この共通価値に基づいて制度改定に反映させ、丸か独自の働き方改革と生産性向上にもつなげている。今後も同委員会の意見を活か

し、国交省が進めるDX推進を踏まえたICT化の導入などに力を入れ、未来に向けて「新たな丸かの企業文化創生」に挑戦していく。

丸か幹部が、創業当初から承継している社是「大和」とは、「争いを封じ、議論しながら智・策を出し合い解決・決断の方向性を明確に共有する」と理解しており、困難な場面において一人ひとりが知恵を出し合い、問題を乗り越えていく時に大切な言葉として伝えられてきている。経営者・従業員ともに、家族的で働きやすい環境を保つとともに、従業員に対し親身になって考えるのが丸かの誇りで、引き続きその精神を堅持する。

新機軸としては人材確保のため、これまで積極的に取り組んでこなかった大学の新卒や中途採用にも間口を広げる方針だ。さらに、人材育成に当たっては、20代の社員が約20人在籍している優位性を活かし、先輩後輩の人間関係を通じ指導力を存分に発揮できる土壌づくりと、若手の育成並びに資格取得を推進していく。

会社の出来事	地域の様子	社会・業界のうごき
1921 大正10年		4月 宮城県土木建築請負組合が設立
1923 大正12年		9月 関東大震災発生
1924 大正13年		1月 第二次護憲運動起こる 6月 護憲三派内閣成立
1925 大正14年		3月 治安維持法、普通選挙法成立 11月 仙台市電軌道敷設工事着手
1926 大正15年 昭和元年		12月 大正天皇逝去、裕仁親王即位、 「大正」から「昭和」に改元
1927 昭和2年		3月 金融恐慌始まる
1928 昭和3年		3月 仙台市電の全通式 4月 東北産業博覧会、仙台で開催
1929 昭和4年		10月 世界恐慌起こる
1930 昭和5年		4月 塩釜魚市場開設
1932 昭和7年		1月 第一次上海事変勃発
1933 昭和8年		3月 三陸沖で地震発生し三陸沿岸に 大津波襲来
1934 昭和9年		1月 東京宝塚劇場開場 6月 東京・新橋浅草間に地下鉄開通

会社の出来事	地域の様子	社会・業界のうごき
1935 昭和10年		4月 名古屋市に東山動物園が開園 9月 第一阿芥川賞・直木賞が決定 12月 豊田自動織機(現トヨタ自動車) 国産トラック第一号を完成
1937 昭和12年		7月 盧溝橋事件発生(日中戦争勃発)
1938 昭和13年		5月 国家総動員法公布
1939 昭和14年		4月 宮城県土木建築業組合が発足 9月 第二次世界大戦勃発
1941 昭和16年		7月 江合川水害、一栗村で氾濫 12月 太平洋戦争に突入
1944 昭和19年		2月 日本土木建築統制組合が成立 2月 厚生年金保険法公布 8月 戦時下の統制により 建築業協会解散 11月 B29東京初空襲

1945 昭和20年	会社の出来事	施工作品・地域の様子	社会・業界のうごき
1946 昭和21年	5月 三代佐々木一男が役員後社長に就任、土木請負業を併設		7月 仙台空襲 8月 第二次世界大戦が終結 9月 連合進駐軍、仙台に駐屯開始
1947 昭和22年	4月 ⑥佐々木材木店として建設業知事登録、宮城県県知事登録(イ)第386号		5月 「日本国憲法」、「地方自治法」施行 9月 キャサリン台風襲来
1948 昭和23年			1月 宮城県土木協会を創立 7月 建設省・東北地方整備局発足 9月 アイオン台風襲来
1949 昭和24年			5月 「建設業法」公布
1950 昭和25年			4月 宮城県建設業協会に改組、初代会長に吉田栄一氏就任 5月 「建築基準法」制定 6月 朝鮮戦争勃発 10月 特需景気
1951 昭和26年		2月 浪井川右岸災害堤防復旧 10月 宮崎中学校校舎新築 12月 保野川筋災害橋梁復旧	3月 朝鮮動乱終結 5月 一級建築士免許制度開始 5月 東北電力が発足
1952 昭和27年		4月 保野川筋災害橋梁復旧 6月 西小野田中学校新築 10月 花川金洗堰融雪水害復旧	9月 サンフランシスコ講和条約調印
1953 昭和28年	3月 丸か建設株式会社設立 一般建設工事請負業を営む 資本金100万円 建設業法人登録(ろ)第353号	 4月 ▲丸か木材工場での初午虎舞い 12月 ▶大衡中学校体育館の上棟式 12月 中新田町南町西町 舗装工事用栗石・木材供給	
1954 昭和29年		3月 田川右岸筋鳴瀬川改良 7月 清永小学校体育館新築 9月 東砂坂沢コンクリート堰堤	7月 宮城県建設業協会の大崎支部が設立、支部長に江刺兵助氏就任 10月 大崎支部が宮城県建設業協会に加入

1955 昭和30年	会社の出来事	施工作品	社会・業界のうごき
1956 昭和31年		1月 水防資材緊急整備用木材供給 3月 区画整理第2工区色麻村清水 10月 北瀬生玉石コンクリート新設	3月 ⑧全国建設業協会が設立 12月 仙台空港が開港 ◆神武景気(成長率10%)始まる〜32まで
1957 昭和32年	7月 丸か建設㈱に木材部を併設	5月 大瓜溜池新設 9月 外川玉石コンクリート堰堤 10月 樹沢林道牛馬道特殊修繕	4月 日本道路公団設立 4月 宮城県建設業協会二代会長に河合宇三郎氏が就任
1958 昭和33年	5月 丸か建設㈱道南出張所を開設	7月 舞石沢第1号コンクリート堰堤新設 10月 烏飼沢流新設	10月 鳴子ダム、花山ダムが完成 ◆なべ底不況に突入
1959 昭和34年	10月 丸か建設㈱道南出張所を閉鎖	3月 積束かんがい排水頭首工改修 7月 北海道赤石の沢崩壊地復旧(厚賀町地内) 11月 烏屋ヶ崎農地災害復旧開田	4月 皇太子明仁親王ご成婚 5月 東北の景気が好転 ◆岩戸景気で高度成長〜36まで
1960 昭和35年	6月 資本金を500万円に増資	3月 長浜防瀬護岸及水門 5月 短台地区土地改良開田 34年7月発生(頭首工)復旧 11月 葡萄沢溪流新設	5月 南米チリ沖地震で津波が三陸沿岸に襲来 10月 初代宮建協大崎支部長死去 二代支部長に瀬戸稔氏が就任 12月 元年より35年まで洪水計18回発生
1961 昭和36年		5月 色麻小学校校舎・体育館改築 11月 鱒ヶ溜林道改良	10月 大倉ダムが完成
1962 昭和37年		3月 牛野貯水地底播及基礎 特相防対花川工事の内第3工区 4月 ▲初午祭の丸か建設本社 10月 鱒ヶ溜林道新設	4月 県北部地震、震度5〜6度、死者4人、全半壊1,911戸
1963 昭和38年	12月 資本金1,000万円に増資	3月 孫沢地区開拓地改良(管線道路)  6月 ▲加美農業高等学校校舎改築 10月 鱒ヶ溜林道(自2)改良	5月 東北農政局が発足 9月 国道108号鳴子町半依山地すべり1.5キロで交通障害
1964 昭和39年	1月 ㈱マルカを設立、資本金3,000万円 2月 丸か建設㈱仙台営業所を開設 7月 木材部を分離し宮城製材工業㈱を設立、資本金1,000万円、製材業専業とする	 3月 ▲丸か建設㈱社屋新築 8月 長沼林道(自2)新設	6月 新潟大地震 10月 東京オリンピック大会開催

1965 昭和40年	会社の出来事	施工作品	社会・業界のうき
	 2月 ▲8Fマルカが仙台市に徳和ビル建設	3月 坂本築堤及び竹下江橋管移設 3月 玉城寺原演習場 基本射撃監のごう補強 3月 玉城寺補償工事事業牛野ダム 3月 清水小学校改築 3月 広原小学校校舎新築 10月 田代林道(自2)新設 11月 坂本地区築堤	2月 宮城県建設産業会館が落成 ◆「イザナギ景気」到来、～44年まで
1966 昭和41年		3月 大堰用水改良事業隧道巻立 	4月 宮城県建設業協会三代会長に 栗原操氏就任 6月 台風4号災害 9月 台風26号関東・東北に被害
1967 昭和42年		6月 ▲中新田役場庁舎新築 10月 烏川溪流 3月 土川原堤防2号頭首工復旧 4月 志田谷地排水機場吐出口管 10月 筒砂子川砂防堤	2月 仙台新港建設に着手 4月 東北大博覧会、 仙台市原町苦竹で開催 11月 県大崎建設会館を設立し 古川駅前に会館建設
1968 昭和43年	 8月 ▲宮城製材工業㈱を④木材工業㈱に 名称変更	 3月 ▲玉城寺補償工事事業第1号 牛野ダム	5月 十勝沖地震が発生
1969 昭和44年	2月 資本金2,000万円に増資 5月 丸か建設㈱に生コン部を併設  9月 ▲生コン工場の操業開始	3月 鶴田川地区第3号志田谷地 排水路 3月 青木原第2地区第1号開渠 作業及び道路 3月 品井沼排水機場吐出口管 飯堤防(受託) 5月 国民健康保険色麻病院新築 11月 釜の沢林道(自1)新設	1月 ニクソンがアメリカ大統領に就任 5月 東名高速道路が全線開通 7月 「アポロ11号」が月面着陸、 人類が初めて月面を歩く 8月 土木施工管理技士検定制度 発足

1970 昭和45年	会社の出来事	施工作品	社会・業界のうき
	1月 一級建築士事務所を開設 宮城県知事登録第7110184号	3月 臨時石炭鉱害復旧事業 うるし田溜池 5月 中新田町上水道建設配管 その他 11月 釜の沢湯下林道(自1)新設	3月 大阪万国博覧会開幕 5月 東北自動車道起工式 6月 三代宮建協大崎支部長に 石堂律之介氏就任
1971 昭和46年		1月 ▲小野田町庁舎新築 3月 館浦齊田排水機場改良 (北上) 8月 鬼首吹上道路新設 11月 易国関西の股林道(自2)新設	7月 仙台新港が開港 11月 東北新幹線起工式
1972 昭和47年		3月 ▲一文字ダム 3月 鳴瀬川下部工 3月 鶴田川排水機場基礎 3月 前川排水機場新設 3月 鳴瀬川上流改良 3月 土川原地区幹線用水路 9月 西釜地区債請2号区画整理	2月 札幌冬季オリンピック開催 5月 沖繩本土復帰 6月 建設業登録制から許可制に移行 7月 田中内閣が発足 9月 日中国交正常化へ
1973 昭和48年	3月 建設業知事許可 特-47第777号 	3月 大衡小学校用地造成 7月 ▲大衡小学校新築 11月 栗山山麓開拓建設事業 第1号幹線道路(第2工区)	1月 狂乱物価現象発生 7月 建築用資機材が品不足、高騰 10月 第一次石油危機 11月 東北自動車道白石～仙台間開通 11月 トイレペーパーなど日用品 買いだめ騒動 11月 東洋一長い吊り橋「関門橋」開通 (全長1,068m)
1974 昭和49年		3月 西釜地区1号区画新田整理 3月 三本木中学校用地造成 (校舎解体共) 8月 ▲橋梁第7、8号橋梁架替 11月 古川道路改良 戸門林道新設	11月 国道4号仙台バイパス全通 12月 田中内閣総辞職 ◆ GNP戦後初のマイナス成長

1975 昭和50年	会社の出来事	施工作品	社会・業界のうき
		3月 三本木中学校新築 3月 吉岡土地区画整理事業	3月 新幹線博多まで開通
1976 昭和51年	5月 ▲給油部創設、自家用給油所を開設	3月 石名坂道路改良 3月 田尻川地区(かん排)2号 加藤堀機械排水路 9月 東小野田小学校校舎建設	12月 東北自動車道古川市まで開通
1977 昭和52年	4月 仙北開発株を設立、資本金2,500万円、 土木建築用資材を製造販売	3月 鶴田川地区2号前川承水路 5月 大衛村平工場用地造成 11月 漆沢林道新設	12月 景気浮揚策で15ヵ月予算
1978 昭和53年		3月 一文字地区諸1号一文字ダム 6月 色麻町役場庁舎新築 9月 西小野田小学校校舎新築	5月 新東京国際空港が開港 6月 宮城県沖地震
1979 昭和54年	7月 資本金3,000万円に増資	3月 新田沢地区新田沢ため池 3月 鶴田川地区3号前川溢流堰 3月 田尻川地区百々川機械排水路	2月 第二次石油危機 7月 四代宮建協大崎支部長に 木戸正一氏就任
1980 昭和55年		3月 三本木右岸下流地区築堤 3月 ▲橋梁第6号(1工区) 橋梁架替(感恩橋) 3月 内水面水産試験場通行道路整備 10月 ゲキ沢林道新設	9月 イラン・イラク戦争勃発 12月 東北地方南部暴風雪
1981 昭和56年	4月 生コン部を法人化、丸か生コン株を設立	2月 逢田橋床版打換 2月 三の関区画整理	3月 166億円漆沢ダムが完成 5月 仙台市営地下鉄起工式
1982 昭和57年		3月 百開堀排水橋管改築及び 左岸上流築堤 3月 ▲中新田高等学校校舎 (南棟)改築 3月 石巻営林署庁舎新築	5月 宮城県建設業協会四代会長に 熱海稔氏就任 6月 東北新幹線盛岡・大宮間開通
1983 昭和58年	1月 青森支店を開設、 本格的に青森県内の営業展開 3月 建設大臣許可、特-57第10326号登録		
1984 昭和59年	2月 創業60周年 9月 齋藤備氏を丸か建設に招聘	 3月 ▲中新田警察署庁舎新築 10月 旭小学校新築(JV)	7月 ロサンゼルスオリンピック開幕 12月 宮城県建設業団体連合会を設立 初代会長に熱海稔氏就任

1985 昭和60年	会社の出来事	施工作品	社会・業界のうき
		3月 ▲三本木千賀森排水橋管改築	3月 つくば科学万国博覧会開幕
		9月 ▲大郷町文化会館新築	
1986 昭和61年	10月 (有)マルカ商事を設立し不動産業を開始、 資本金1,000万円	3月 大郷町文化会館環境整備 3月 長堀川橋下部工 10月 粕川第1護岸災害復旧 12月 小山田川沿岸地区(かん排) 第1号管生ダム建設	4月 五代宮建協大崎支部長に 菅原千代男氏就任 8月 集中豪雨で被害(85豪雨災害) 11月 宮城県建設業厚生年金基金を 設立
1987 昭和62年	11月 マルカ木材工業株に 木工部を設立		4月 国鉄民営化、 仙台にJR東日本発足 7月 仙台市地下鉄南北線が開業 7月 未来の東北博覧会を仙台港で 開催 9月 熱海稔会長急逝で第五代会長に 若生金郎氏が就任 9月 東北自動車道全通
	4月 仙台営業所を仙台支店に改組	1月 三本木道路改良第1工区 	3月 青函トンネル開通 4月 労働基準法改正で施行 6月 改正建設業法が施行
1988 昭和63年		4月 ▲花京院ビル新築 12月 ▲大綱橋橋1橋床板工	

	会社の出来事	施工作品	社会・業界のうごき
1989 平成元年		3月 保野川地区保野川ダム 3月 富谷北部二の取工区暗渠排水 3月 多田川橋下部工第2工区	1月 「昭和」から「平成」に改元 4月 消費税法施行、消費税率3% 11月 ベルリンの壁崩壊 12月 マルタ会談で東西冷戦終結
1990 平成2年		1月 浦谷道路改良第1 9月 宮崎浄化センター施設建設	8月 第1回「建設フェア'90」
1991 平成3年		3月 木伏工業団地造成 4月 雇用促進住宅大衡大倉宿舎建設	1月 湾岸戦争勃発 4月 建団連と共催で第1回「k-DAY」 12月 ソ連崩壊 ◆バブル経済崩壊
1992 平成4年		3月 道建受第1号(6工区)鬼首道路改良、大崎西部農業利水事業第2号幹線用水路(その4) 9月 三本木右岸下流築堤	5月 宮建協第六代会長に奥田和男氏就任
1993 平成5年		 2月 ▲七十七銀行古川支店新築	9月 宮城県が冷害等異常気象災害対策本部を設置 10月 皇太子徳仁親王ご成婚
1994 平成6年	2月 創業70周年 4月 佐々木一男社長が勲五等双光旭日章受章	 2月 ▲中新田町生涯学習施設(図書館)新築 8月 新沼第1地区(農業排)2号管路新設	4月 法定労働時間「週40時間」に移行 6月 村山内閣発足 9月 宮城県に局地的集中豪雨(9.22豪雨)
1995 平成7年		1月 鳴瀬奥松島IC橋下部工 5月 鬼首トンネル排水トラフ設置第1	1月 阪神・淡路大震災が発生 3月 地下鉄サリン事件 4月 建設省が「建設産業政策大綱」策定
1996 平成8年	6月 四代目社長に佐々木浩章が就任	7月 東北自動車道三本木高架橋橋脚補強	7月 「宮城県建設産業会館」落成式挙行 8月 宮城県北部地震発生 10月 宮建協ら4団体で週40時間労働制へ
1997 平成9年	 四代 佐々木浩章	3月 鳴瀬川(二期)農業利水事業柔折工幹線用水路(その1)  12月 ▲古川工業高等学校校舎新築(その3)(JV)	4月 消費税5%に引き上げ 9月 建設6団体が「ノー現場デー」で協定

	会社の出来事	施工作品	社会・業界のうごき
1998 平成10年		3月 ▲保野川地区(障害)4号保野川ダム(JV) 9月 色麻町色麻浄化センター建設 11月 中野道路改良舗装	2月 長野オリンピック開催 3月 県と宮建協「大規模災害時の応急対策業務に関する協定」で調印 4月 金融ビッグバンスタート 5月 「大崎建設産業会館」の落成記念式典
1999 平成11年		3月 ▲農業実践大学校農産学部新築(その4)	5月 宮建協創立50周年記念式典・祝賀会開催
2000 平成12年	3月 三本木営業所を開設	3月 王城寺原後方支援施設新設建築 12月 新世紀公園現代の丘整備	8月 宮建協と支部会員との意見交換会開催 11月 「第1回土木技術奨励賞」発足
2001 平成13年	3月 国際規格ISO9002認証取得、品質管理の充実図る 7月 マルカ木材工業株を特徳和に建設業を主力で社名変更	1月 花岡山道路改良(6号トンネル) 3月 三陸自動車道利府塩釜インターチェンジ 8月 山の神道路改良	1月 省庁等再編で国土交通省が発足 2月 宮建協が全国初のISO14001認証取得 5月 六代宮建協大崎支部長に瀬戸貴氏就任 9月 アメリカ同時多発テロ発生 10月 宮建協が高校現場見学会
2002 平成14年		3月 ▲公立加美病院新築(JV) 5月 花川砂防王地区(障害)-001号花川砂防ダム 9月 鳴子ダム洪水吐本体内工その他	5月 日韓共催FIFA「サッカーワールドカップ」開催
2003 平成15年		6月 秋田自動車道雄物川第二橋(下部工)、滝岸道路改良  3月 ▲上大沢ダム築造(JV)、3月 下工第2号加美町公共下水道汚水管渠(第16工区)	3月 イラク戦争開戦 5月 三陸南地震 7月 宮城県北部連続地震 12月 宮建協・21世紀型地域創生プログラム特別委員会が最終答申
2004 平成16年	7月 ▲自家用給油所を「セルフ中新田バイパスSS」として一般販売を開始	3月 広瀬情報管路設置 3月 用水対策地区(障害)柏木溜池 3月 二線堤福産地区 9月 ▲中新田地区統合保育所新築 12月 米田道路改良(青森)	4月 七代宮建協大崎支部長に遠藤久之氏就任 12月 新潟中越地震発生 12月 スマトラ島沖地震発生
2005 平成17年		3月 歌津大橋耐震補強 3月 宮崎小学校大規模改造 12月 ▲中新田中学校校舎改築	3月 愛知万国博覧会開催 4月 公共工事品確法が施行 12月 スーパーゼネコン4社が「談合決別宣言」
2006 平成18年		3月 鹿野道路改良 3月 宮崎小学校大規模改造 12月 ▲中新田中学校校舎改築	9月 国土交通省が「入札ポンド制度」で通達 12月 東北整備局と宮城県が「総合評価」導入
2007 平成19年		3月 鹿野道路改良 8月 鹿又川砂防ダム 12月 中新田高校校舎等改築	2月 宮城県が「入札ポンド制度」開始 7月 新潟中越沖地震発生 11月 宮建協が日赤と献血推進で覚書締結 12月 改正建築基準法全面施行

2008 平成20年	会社の出来事	施工作品	社会・業界のうごき
		2月 ▲三本木地域「子供が丘整備事業」幼保一元化施設建設 3月 加美町立広原小学校外構 8月 小川原地区応急復旧 11月 大湊管理棟新設等土木	3月 宮城県が「みやぎ建設産業振興プラン」策定 5月 宮建協第七代会長に佐藤博俊氏就任 6月 「岩手・宮城内陸地震」が発生 9月 リーマンショック、金融経済恐慌
2009 平成21年		3月 鳴瀬川二線堤防高台鳴瀬線外 5月 大坪・京ノ沢工区区画整理 7月 浅布地区B治山	1月 東北建協連が「災害対策支援隊」結成 4月 三陸復興自動車道橋生津山～登米間開通 8月 民主党、衆議院で圧勝し政権交代
2010 平成22年		3月 行者治山 12月 北上川下流地区 鉾波地区環境整備	6月 小惑星探査機「はやぶさ」帰還 9月 宮建協が家畜伝染病発生時の緊急業務協力に関する協定を県と締結
2011 平成23年			
		3月 河原小屋林道災害復旧 3月 古川西部介護老人福祉施設新築 5月 湯舟沢治山激甚災害対策特別緊急 5月 ▲加美消防署庁舎等建設 8月 鳴瀬川下中ノ目地区緊急復旧 11月 浜谷浄化センター建設その7	3月 ▲東日本大震災が発生し巨大津波で壊滅的被害 ◆ 宮建協が災害対策本部設置し初動対応 7月 女子ワールドカップでなでしこジャパンが優勝 ◆ 欧州の経済危機が深刻化
2012 平成24年	5月 人事考課制度を採用し組織活性化を図る 10月 創業90周年記念式典を開催	4月 新江合川馬寄地区他築堤  10月 ▲秋精工つくば第2工場新築	2月 復興庁が発足、宮城県が宮建協ら4団体に復興で感謝状 3月 地元建設関係主催の「かんばらう東北」 5月 東京スカイツリー開業 9月 建設5団体主催で「復旧復興安全総決起大会」 12月 自民党、衆議院で圧勝、政権へ復帰 ◆ 災害復旧に伴う資材と労務単価の異常高騰
2013 平成25年	3月 社内に「大和塾」(若手育成の勉強会)立ち上げる	2月 鳴瀬川下中目小袋上流地区築堤 3月 吉田川山崎上流地区築堤 9月 名取地区第八治山	3月 復興加速化会議 5月 三陸復興国立公園を創設 12月 国土強靱化法を施行 ◆ 工事価格のインフレスライド発動
2014 平成26年		3月 災害廃棄物処理業務(気仙沼ブロック)(大成JV) 3月 荒沢地区道路改良 3月 鳴瀬川新志田橋下部工 12月 仙台地区第十三治山	2月 復興加速化会議で「復興係数」を導入 3月 宮建協が県の「指定地方公共機関」 4月 八代宮建協大崎支部長に石堂昌安氏就任 4月 消費税5%から8%に増税 5月 担い手3法が可決成立 12月 衆議院選挙、自民・公明で325議席獲得

2015 平成27年	会社の出来事	施工作品	社会・業界のうごき
	5月 丸かホールディングスを設立、グループ全体の健全化と強化を図る 8月 大相模 仙台場所開催を初支援 	2月 蛇田地区道路改良 5月 岩沼地区第十二治山 6月 ▲石巻市蛇田C-1街区災害公営住宅新築 6月 浜市地区第二治山	3月 国連防災世界会議仙台で開催 9月 関東・東北豪雨で浜井川が決壊氾濫 12月 石井国交相が復興現場に「Con導入表明」 12月 仙台市地下鉄東西線が開業
2016 平成28年	11月 みちのくEMS認証取得 	3月 気仙沼最知工区区画整理及び農地災害復旧 3月 田北上川左岸魚町・川口地区築堤 3月 御伊勢浜海岸治山 7月 水尻橋下部工復旧	2月 「宮城建設女性の会2015」設立会開く 4月 九代宮建協大崎支部長に菅原伸介氏就任 5月 宮建協第八代会長に千葉嘉春氏 5月 伊勢志摩サミット開催 ◆ 「新みやぎ建設産業振興プラン」を策定
2017 平成29年		3月 熊田地区道路改良 3月 亘理地区第十六治山 5月 浜井川災害関連 8月 大谷(沼尻)海岸第4治山 11月 ▲長面地区第一治山	1月 アメリカ・トランプ大統領が誕生 3月 東京市の島インフル発生で宮建協が対応 7月 国交省が「働き方改革」で政策提言、九州北部豪雨が発生 12月 第3次安倍改造内閣発足
2018 平成30年	 	1月 ▲月浜岡地ビクターセンター新築 1月 古川河西地区改良 3月 ▲月浜岡地整備 3月 仙台地区第三十三治山 3月 あ・ら・伊達道の駅トイレ棟 9月 歌津大橋下部工	6月 大阪府北部地震発生 7月 宮建協が県内8箇所で見学現場見学会開く 9月 西日本豪雨が降る 10月 「休日・月1+」運動スタート
2019 平成31年	 	1月 ▲津谷長根地区道路改良 1月 洞万西沼・森治山 2月 古川東地区道路改良 2月 岩沼地区第16(4)治山 3月 宮城障害者職業能力開発校建築その他 3月 鳴瀬川多田川中流地区築堤 3月 田北上川左岸藤巻上流地区築堤護岸 3月 ▲名取市消防署隣土出張所 3月 港地区両渠工	4月 新元号「令和」を発表
2019 令和元年		5月 手櫓5工区区画整理 6月 大崎広域新リサイクルセンター建設 8月 鳴瀬川総合開発原石山試験掘 10月 田北上川左岸八幡地区築堤 11月 マダラ沢治山	5月 徳仁親王が天皇に即位、「平成」から「令和」へ改元 10月 消費税が10%

	会社の出来事	施工作品	社会・世界のうごき
2020 令和2年	10月 健康経営宣言を公表	3月 旧北上川雲雀野上流地区築堤 3月 岩井崎海岸第4治山 3月 馬寄地区道路改良 8月 日本海東北自動車道 酒田みなとインターチェンジ 11月 沖ノ田海岸第3治山	9月 菅義偉内閣が誕生 ◆ 新型コロナウイルスが 全世界で大流行
2021 令和3年	3月 「健康経営優良法人」に初認定、 宮城県の「女性のチカラ活かす企業」に 初認証 	1月 古川大幡境野宮地区 道路改良 3月 ▲東松島市鳴瀬桜華小学校建築 3月 大川外河川災害復旧 (その3) (JV) 3月 吉田川野蒜地区河道掘削 9月 旧北上川右岸中央地区築堤外	1月 バイデン米大統領が誕生 2月 ウクライナ戦争が勃発 3月 気仙沼湾横断橋開通 (全長1,344mの斜張橋) 7月 東京オリンピック開催 10月 岸田文雄内閣が誕生
2022 令和4年	8月 厚生労働省の「くるみん」で初認定 	3月 駒場地区道路改良 3月 古川境宮地区道路改良 3月 吉田川若針地区掘削護岸 6月 ▲善川遊水地村道付替  7月 ▲古川信用組合中新田支店 11月 加美町新設中学校改修	2月 冬季オリンピック北京大会開幕 4月 知床観光船沈没事故 7月 安倍元首相が暗殺 10月 円安ドル150円突破
2023 令和5年	1月 丸か建設㈱新社屋完成 11月 創業100周年記念式典 	2月 大衡北地区道路改良 2月 宮城北部沿岸治山 3月 吉田川上流上舞野西地区 河道掘削外  6月 ▲三日町道路改築(橋梁) 7月 旧北上川鹿又地区築堤 7月 ▲稲葉地区道路改良 7月 切留山治山 8月 名取市下増田公民館・ 下増田児童センター改築	3月 世界防災フォーラム開催 (仙台国際センター) 3月 WBCで侍ジャパンが優勝、 14年ぶり世界一 4月 第40回全国都市緑化 仙台フェア開幕 5月 G7広島サミット開催
2024 令和6年	3月 創業100周年		

特集 ◆ 現代編

Special Feature Special Edition

談 鼎

「丸か」が求める大和の 精神と変化への対応力

創業100周年を迎える丸か建設株式会社の歴史は、幾多の困難を乗り越えて刻まれた軌跡といえます。創業者の「大和」の精神を受け継ぎながら、時代が求めてきたものを敏感に受け止め、常に柔軟に対応してきた社風が原動力となって今日があります。それを支えてきたのが歴代の役員、社員、そして地域の方々の存在です。

創業のルーツから、苦難の歴史をたどり、これまで創りあげてきた企業精神、組織風土と企業文化を振り返りながら、災害の復旧復興の最前線を担う「地域の町医者」としての使命、最先端の技術を導入して未来を目指す丸か建設の次の100年に向けたビジョンについて語り合いました。

常務取締役

佐々木 一暢



佐々木 一暢
KATSUNOBU Sasaki

丸か建設株式会社常務取締役
平成28年3月 東北学院大学卒業
平成31年1月 丸か建設株式会社入社
平成31年1月 常務取締役就任

専務取締役

三浦 秀範



三浦 秀範
HIDENORI Miura

丸か建設株式会社専務取締役
昭和42年3月 古川工業高等学校土木科卒業
昭和42年4月 丸か建設株式会社入社
平成18年4月 取締役就任
平成24年7月 専務取締役就任

代表取締役

佐々木 浩章



佐々木 浩章
HIROAKI Sasaki

丸か建設株式会社代表取締役
宮城県建設業協会大崎支部副支部長
宮城県森林土木建設業協会会長
昭和61年 3月 東北学院大学卒業
昭和62年10月 丸か建設株式会社入社
平成 8年 6月 代表取締役就任

「丸か」100年のルーツと大恩人の存在

大正13年創業の経緯

佐々木社長 丸か建設株式会社は、私の祖父の佐々木勘治が旧小野田町で、旅館業、金物店、木材店など幅広く事業を営む商家「小野田丸か」から妻けんととの結婚を機に、木材部を独立させ、大正13年3月に「㊦佐々木材木店」として創業したのが始まりです。

終戦後は現在の地で事業を再開しました。当時から建築業との関わりがあり、地域からの依頼を受け、木材を供給しながら大工さんなどを集めて地元の学校建築などにも携わっていたようです。

二代目の祖母けん氏と「丸かの大恩人」

佐々木社長 勘治社長が37歳の若さで病死し、妻けんが昭和14年2月から二代目社長として社業を受け継ぎました。

勘治社長の急逝で苦境にあったけん社長を支えたのが、佐々木正治氏と齋藤十五郎氏でした。

佐々木氏は近所で自転車店を営んでおり、サイドカーにけん社長を乗せ、勘治社長が行ってきた材木調達のための山林購入を手伝ったそうです。齋藤氏は、県内随一の馬喰（ばくろう）として知られ、伐採した木材運搬のため馬車を手配し配送を手伝っていたそうです。その車列が長蛇のごときと例えられるほどの繁盛ぶりだったと聞いています。

今日の丸か建設があるのは、佐々木氏と齋藤氏の献身的な支援があってこそで、二人は「丸かの大恩人」として今も語り継がれています。

三代目の一男社長と「中興の祖」の存在

佐々木社長 私の父で、三代目の一男社長は太平洋戦争で徴兵され、昭和21年5月に復員後、事業を継承しました。

昭和28年3月に㊦佐々木材木店を丸か建設株式会社に組織変更し、木材部を併設しています。その後は、有能な人材を集め、ダムなどの大型土木工事も受注、社業発展と近代化に尽力しています。

一男社長は、「必要なものは買え、欲しいものは買わない」「お前たちは必ず守るから、安心して働け」というのが口癖でした。経営者として従業員からも厚い信頼を受けていたようです。

私の母で一男社長の妻とし子は、二代目けん社長を



助けた大恩人、齋藤十五郎氏の次女で、とても面倒見が良く、多くの町民からも慕われていたようです。

一男社長は昭和58年8月に病気で倒れたため、昭和59年9月に、建設省を経て鉄建建設で経験を積んだ齋藤十五郎氏の長男、齋藤備氏を丸か建設に招聘します。齋藤備氏は一男社長に代わり、丸か建設近代化の中興の祖としての役割を担っています。

一男社長は、昭和29年7月の宮城県建設業協会大崎支部の設立以来、長年支部役員とともに本部役員もつとめており、平成6年には勲五等双光旭日章の栄に浴しました。

全員一丸の企業体質と誇るべき社風

丸か建設の社風や大切にしてきたこと

佐々木社長 創業以来、丸か建設が大切にしてきたことは、社是の「大和（たいわ）」です。これは、聖徳太

出来るのが我が社の企業体質で誇ります。

社訓の一番目に、「我々は、大和の精神の下、個々に自信と責任を持ち、全員一丸となって急速に変化する地域経済及び社会環境への貢献を目指す」とあります。いわば「みんな力」です。

三浦専務 「大和」の意味は、議論を重ねながら智と策を出し合い、解決、決断することとされています。問題を解決し、困難な場面を乗り越えていく時にとっても大切な言葉であり、会社が繁栄し続けるための社是だと思っています。

家族的な環境で、働きやすい雰囲気がある社風を保ち、昔ながらの土建屋的な感じもなく、社員に対し本当に親身になって考える経営陣と実感しています。

佐々木常務 地域に貢献している他社の事情なども汲み取りながら、工事受注も検討しています。一方、災害による緊急工事などの依頼があれば、二つ返事で引き受けます。人と人、周りとの調和を重んじることをとても大切にできていることを実感しています。

こうした姿勢が会社全体に浸透しており、社員間のコミュニケーションや雰囲気はとても良いので、さらに一層の改善点や提案面での対話が増えると、より強くなると信じています。

時流に乗れる チャレンジ精神をもつ

建設業氷河期時代をどう乗り越えたのか

佐々木社長 私は、平成8年6月に四代目社長に就任しました。齋藤備氏の薫陶を受け、これまで将来に向け、希望の持てる組織づくりと技術革新に努めてきました。

社長就任後は決して順風満帆ではなく、平成初期から始まった建設産業氷河期時代を経験しましたし、その時の経営の苦しさは今でもはっきりと覚えています。

それは本間県政から浅野県政へと変わるとほぼ同時に始まりました。今思えば、当時は常識をはるかに超えた価格競争の結果、予定工事価格の6割受注は当たり前で、年を追うごとに請負金額と単価の下落が続き、労務費を例にとれば、はじめ1万9,000円ほどあった額が1万1,000円まで下がり続けました。

ほとんどの業者が赤字続きで、倒産する業者が相

子の「和を以て尊しと為す」と論じた言葉からの引用と聞いています。あらゆる事を決める場合、力での争いを決して好まず、意見は多種多様に多く出た方がよい、その中で意見の相違は話し合いで最善を見つけるといことです。会社の運営においても、時に応じた対応を参加者で話し合い、その中で最良を見いだしながら進んでいける会社づくりを心がけてきました。この創業以来の社是を大切に経営してきました。

社風についてはアットホームで、風通しが良いと社員が言ってくれます。社員一人ひとりを大切にし、緊急時など、事ある時には、全員一丸となって対応

次ぎ、大崎支部63社の会員が半減するという厳しさでしたが、全社一丸となって難局を乗り越えることができました。最悪の状況の中で会社を維持していくためには、社員全員が現状を理解し、難局を乗り切るため知恵を出し合いました。報酬の面では、社員に大きな負担を強いました。今後利益が上がれば今まで以上多く支給することを約束し、賞与は支給しませんでした。無駄をなくして儉約につとめ、乗り切るしかありませんでした。

弊社特有の家族的なまとまりと、目標に向かって一致団結するという結束力、私を含め歴代社長が心血を注いできた人材の育成が活かされた結果だと思っています。

将来に向け希望のもてる会社づくり

佐々本社長 社是の「大和」の精神を重んじ、我が社が掲げる社訓を一致団結して目指します。今後とも社会状況を見極めながら、その時々に応じた判断をしていくことです。その上で、会社の進む方向性を見定め、社員全体の生活の安定と、将来に向けて希望の持てる組織づくりを進めていきます。

三浦専務 「顧客を第一に考える正直な経営方針」、「従業員を大切に考える社風」そして「時代を生き残る時流に乗れるチャレンジ精神」を持続けることで

す。創業100周年を迎え、時代に合った新たな技術力を持ち、社員個々の能力を向上させ、更なる100年を目指したいと思います。

安定した会社経営を行うことが、経営幹部の責任と使命です。そのため社員に不安のない職場環境を提供するとともに、安定した賃金を支給できること、そして経営理念を

しっかり持ち、従業員にフィードバックして、経営者と社員が同じ方向に進めば、更に生産性の向上にも繋がると思います。

佐々本専務 会社を続けることは社員とその家族を守ることです。そのためには、厳しい判断をしなければいけないのも経営者の仕事です。社員の身体的な怪我や精神的な病が起きないように目を配り、時には「同じ目線に立って考えることも大切」と思っています。

「人は石垣 人は城」 人材が一番の宝

会社を持続する人材の確保や育成

佐々本社長 「人は石垣 人は城」という、戦国武将武田信玄が謡った武田節を初めて耳にしたのは、私が二十歳の頃でしたが、40年以上経っても耳から離れず、折りにつけ思い出します。昔も今も、人と人との関わり合いから良くも悪くも何かが始まります。

今の会社に置き換えれば、会社は工務、営業、総務が一つの組織として機能する事で、石垣の役目を果たし会社という城になります。会社を経営し、引き継ぎ残していくためには、何をどうすれば良い人材が集まり成長していけるか、何を重視して方針を定めていくか、会社をどういう組織にしていけるかで大きく変わってきます。

現在の建設業を取り巻く環境を見ると、少子高齢化が進み人材確保は難しくなる一方です。今後も、幅広く人材を確保し、入社後も分かりやすく教え、個性を活かしながら育てられるような社風と社内環境づくりができれば、自然と人材が集まる会社になります。

人と人との結びつきと経験と知恵は、会社を継続発展させていくために絶対欠かせません。会社にとって良い人材が一番の宝です。いかにして確保し、伸ばし育てていくかが、未来につなげていく課題でもあります。

佐々本専務 これまであまり行ってこなかった大学新卒や中途採用の間口を広げた採用を模索しています。いま当社の20代の社員は約20名、ベテラン社員からだけでなく、年の近い先輩からの指導も活発に行われており、若手育成の環境、社内雰囲気ととても良好です。東日本大震災後に入社した社員も続々と一級施工管理技士資格を取得し始めてお

最先端の技術で可能性に挑戦



生産性向上とICT施工への取り組み

三浦専務 国交省発注工事では、情報化施工から始まり、現在ではICT施工が標準化しつつあります。しかし、ある程度まとまった数量の工事が少なくなってきたり、今後、小規模土工でも対応するような流れにあります。宮城県発注工事も同様に標準化が進められており、生産性向上に向けICT施工は避けて通ることができません。

当社では、中堅技術者が若手社員に対し、3次元設計データの作成方法や当社保有の地上型レーザースキャナーの測定方法について、指導育成を進めています。ICT施工は今や一般化し、施工管理をする上で負担軽減することができます。しかし、担当する現場でICT施工工事から離れてしまうと、せっかく学んだものが活かせないという課題があります。

当社の強みは、各年代が揃っており、今が土台作りをする絶好のチャンスと考えています。そのために、5~10年後の会社を見据え、社員のスキル向上を図るため専門の教育部門を立ち上げることが必要だと思っています。今の若手技術者は、施工図面から現場の完成イメージが湧かない事で、現場の段取りや施工方法に戸惑う場面が少なからずあります。しかし、3次元設計データやCIMなどの導入で、施工前の現況、完成までの経過、過程をアニメーション的に再現出来ることで、完成イメージを構築できます。また、ICT活用工事だけではなく、通常の施工の中でも導入することに気づいてほしいと思います。

例をあげると、残土や仮置き土の検収にレーザースキャナーを取り入れる。水路工

り、技術者としての層がかなり厚くなっています。

人材確保においてアピールするポイントは、休日の確保、処遇改善、業務の効率化という働き方改革やICT施工など生産性向上ばかりでなく、公平公正な人事考課が行われているかがとても重要です。

自分の実績を主張できない、やって当たり前という認識での評価、考課会議の雰囲気などの暗さなど、ほとんどの社員がマイナスの印象を持っていた人事考課を、社員育成のための機会としてとらえ、少しでも前向きに仕事に取り組むきっかけにしたいと、制度改定に踏み切りました。社内の主任と次長クラスから選出した社員による「経営力強化委員会」を発足させ、みんなが求めるレベルをはじめ、それらについての評価項目を考えました。

同時に、賃金制度も見直しました。これまでの弊社の給与体系の特徴は、「定例給与を抑えて賞与は多く」という方針でしたが、社員の中からは賞与を減らされても構わないので、給与を多くして欲しいという声がありました。震災関連の復旧工事が完了しつつある中で、賞与を安定してもらえるか分からないという社員の不安や毎月の生活をより安定させたいという希望も充分理解できました。加えて、社長が行った年功を重んじる制度からの脱却を更に進め、能力や努力に報いる制度を目指し、改定を行いました。

安定的に給与を支払うためには、会社がきちんとした業績を上げなければなりません。そのために明確な売上・利益目標を掲げ、社員には前述した人事考課制度と合わせ、より一層業務に励んでもらおうと覚悟を決めて賃金改定を行いました。もちろん、業務の効率化やICTなどの取り組みは、これからまだまだ改善の必要があります。



(側溝工)路線測量に、3次元設計データを導入することで下張レスとする。同様に張ブロックにも3次元設計データとレーザースキャナー導入で3次元管理(面管理)をするなどです。

下張が悪いわけではなく、管理方法の移行で自分たちの職務低減ができることに気づいてほしいのです。今までが当たり前と思わないことが大切で、無限の可能性にチャレンジしてほしいですね。

「地域の町医者」としての使命と役割

佐々木社長 地震や大雨など自然災害、鳥インフルエンザや豚熱などの緊急時の対応はもちろん、常日頃から、道路、ダム、河川清掃整備、防鹿柵補修など、さまざまな要望に応じた巡回と点検を行うなど、必要性和要請に応じた活動を行っています。またスポーツ、お祭りなど町おこし、地域おこしのさまざまなイベント、清掃美化活動、その他のボランティア活動にも積極的に参加しています。地域に根を下ろし地元の皆さまからご協力を頂いたおかげで、現在の我が社があります。地域の方々が少しでも安心して安全に暮らせるように、今後も協力を惜しみません。

創業100周年記念事業の一環として実施した新社屋の建設ですが、旧社屋北側に令和5年1月に完成しました。機能性充実と働きやすさを追求し、地中熱を利用した冷暖房システムなど先進技術を取り入れた環境配慮型のオフィス空間を目指しました。

東日本大震災の時は、旧社屋の敷地内にある2階建ての建物を避難所として地域に開放しました。今回完成した新社屋1階は、災害時の緊急避難に対応できるスペースとし、常に非常用の水や食料なども備蓄しています。



三浦専務 当社では、公共・民間施設などの雨漏りや漏水・断水などの相談や修理の対応に気軽に応じています。また、近隣の金融機関、病院、警察、コンビニの駐車場の除雪も道路除雪業務の傍ら行っています。地震や洪水による被害状況の調査や被害箇所の応急復旧への対応、宮城県建設業協会大崎支部の道路清掃デーへの参加なども積極的に取り組んでいます。

佐々木常務 社長も話していましたが、社屋敷地内の研修所を地区民の集会所として、駐車場を消防団による伝統行事「火伏の虎舞」の練習会場として開放しています。さらに、町内の一斉清掃デーで発生した土砂や燃えないゴミの集積場所を回り収集したり、会社周辺側溝の除草や清掃も行ったりしています。

私共地域建設業は「地域の町医者」として、そこに住む人たちが安心して利用できるモノづくりをすることが使命です。そして災害発生時には365日、いついかなる時であろうと、どこよりも早く動くことだと思います。

「我々がやらなければ誰がやる」

東日本大震災など災害復旧復興への対応

佐々木社長 今日までさまざまな災害復旧工事を経験して第一に思うことは、この対応は「我々がやらなければ誰がやる」という責任感と経験を積み重ねてきた自信が、会社全体から滲み出ているような気がするということです。

幾度となく大きな緊急災害と向き合いながら乗り越えて来られたのは、山岳地域での治山林道工事、地元企業としては実績の少ないダムやトンネル工事など、古くから施工実績を積んで経験してきたからだと思います。

東日本大震災発生時は未曾有の惨状でした。全てが破壊され物資も不足する中、とにかく復旧に向け行動するという感じでした。石巻周辺の道路啓開工事や石巻市定川の排水作業など発注者や地元の要請に応えての突貫工事となりました。富谷ジャンクション近くの亀裂が入った高速道路のジョイント部分は3日で開通させました。使命感を持ってこのような復旧・復興工事にあたってくれた社員を誇りに思います。

三浦専務 当社では災害対応に迅速に行動するため、常に資材倉庫には資機材を備蓄しています。もちろん災害対応マニュアルを作成し、年2回の訓練を実施しています。昭和61年8月の台風10号による洪水被害、平成15年7月の宮城県北部地震、平成20年6月の岩手・宮城内陸地震、そして平成23年3月の東日本大震災などの大災害に、常に社をあげて対応してきました。

岩手・宮城内陸地震の対応では、国交省から大きな信頼を得たと感じました。発注者の緊急要請や要望に真摯に応え続けており、発注者からの評価は高いと言えます。地元からは「丸かさん」と気軽に声を掛けてもらえています。地元であるからこそ、半端な仕事はしない企業だと信用を得ていると感じます。



佐々木常務 国交省東北地方整備局からは、工事成績優秀企業認定を4年連続で受けています。また災害発生時の対応に関しても、近年の異常気象、頻発する地震対応など、国交省をはじめとする発注機関からの要請を受け、即座に対応していることがとても高く評価されています。地元では、「丸か」と聞いて知らない方はいませんし、この町に生まれた者として、この町で100年続いている会社として「さすが丸かさん」と言ってもらえるよう、感謝の気持ちを忘れないで事業を継続していきたいと思っています。

将来に向け礎築き丸かの次代をけん引

「この先100年」に向けての希望と期待

佐々木社長 「人が人をつくる」という人づくりが一番大切にしなければなりません。お互い働く方々の気持ちを忘れず、胸を張って全員が「丸か建設で働いて

います」と言える会社づくりをしてもらいたいと思います。「人は城 人は石垣 人は堀 情けは味方 仇は敵なり」という、武田信玄が残した言葉がありますが、まさにその通りだと思って戒めになっています。

三浦専務 顧客第一の姿勢と社員を大切にすること。そして常にチャレンジ精神を忘れないことです。次代を担う佐々木常務には、社員に不安を与えないこと、そして丸か建設の理念をフィードバックして、ICTなど生産性向上にさらに力を入れ、若手も含めて社員が生き生きと働ける企業に成長させてほしいと思います。

佐々木常務 創業時から支えてきて頂いた方々のおかげで、いまの丸か建設があります。私が事業を引き継ぐべく丸かに戻った当初は、正直、現社長には就任当初、祖父一男の兄弟や齋藤備さんがついていましたし、その後も三浦専務、千葉常務、星常務など多くの素晴らしいスタッフに囲まれており、盤石な中での社長引継ぎを羨ましいと感じていました。はたして私を支える人がいるのだろうか。でも、しばらくしてから、私の周りの部長、次長、課長はとても頼りになりますし、中堅、若手の方々とこれから一緒に会社をやっていくことをとても楽しみに感じているということに気づきました。弟の佐々木功真取締役も、生涯の支えとして心強く思っています。

私の目標は、いま一番若い社員が退職されるまでの約45年間は、何としても会社を存続させること、その繰り返しで、100年後に向けて会社の礎を築くことです。そのために、決断するのが社長の役目であり、そこに至るまでの過程として役員、各部役職者、若手含めた全社員と意見を交わしていくという、社は「大和」の意味するところを改めて心に刻み、丸か建設をけん引して参ります。



総合建設業を担う技術者たちの挑戦



建築部主任

はやさか ひろあき

早坂 広明

古川工業高等学校建築科卒業
平成2年4月入社。入社歴33年
大崎市古川出身

【株式会社精工つくば第2工場新築工事】

- ◆敷地面積=4万1,071㎡
- ◆構造規模=S造2階建延8,206㎡
- ◆工期=2012/1~2012/8
- ◆建設場所=茨城県土浦市沢辺57-5、57-31



精工つくば第2工場

遠隔地、短工期の課題を見事克服

最初に配属されたのが、地元の工場建設の現場で下請でしたが、その後自社の元請の工事も経験しました。少しずつ規模も大きなものというようにステップアップしていきました。

施主の傑精工さんと当社は、1995年竣工の宮城工場(中新田)以来のお付き合いです。精工つくば第2工場は遠隔地で規模も大きく、工期が短いなか、他会社による別発注工事が平行して行われる難工事でした。そこで、効率的に工事を進めるため、4工区に分けスキームをつくり、各工区1工程が終われば次工程に進むラップ方式で施工しました。後半戦は毎日戦争のような感じでしたが、改めてPDCAサイクルの重要性を再認識しました。

未来をつくるオーケストラの指揮者

工事現場はモノや機械が勝手にやっているのではなく、いろいろな職種の人間が一つひとつ手作業で建物を造り上げていき完成します。現場代理人はオーケストラの指揮者と同じで、各職種の人間を一つにまとめあげる役割を担っています。

大変なことや困難なことが多々ありますが、無事故・無災害で完成した時の達成感と喜びは、他では味わえないのが最大の魅力です。

PDCAサイクルの重要性を再認識



建築部次長

たかはし さとる
高橋 悟

古川工業高等学校建築科卒業
平成18年10月入社 入社歴17年
大崎市岩出山出身

【東松島市立鳴瀬桜華小学校建築工事】

- ◆敷地面積=2万0,771㎡
- ◆構造規模=RC造地上3階建延6,895㎡
- ◆施設用途=校舎、体育館、プールほか外構
- ◆工期=2019/7~2021/3



東松島市立鳴瀬桜華小学校

より良い品質を無事故・無災害で

県外と地元の建設会社を経て平成18年に入社しています。社有車を支給されるなど福利厚生が充実しており、自宅が近いことも決め手でした。

建築部に配属されてすぐに、中新田高等学校増築の現場のアシストにまわり、翌年から現場代理人を務めました。いつも感動するのは足場解体後、建物の全容が明らかになる瞬間の達成感で、やりがいを感じます。「より良い品質の建物を無事故・無災害で、工期内に完成させる」ことを心掛けています。

これまで経験した最大の現場は「鳴瀬桜華小学校」です。校舎、体育館、プールなどの機能一体型デザインという設計の難しい挑戦に 대응するため、全身全霊で設計の意図をくみ取りながら、品質確保に努めました。

設計者、学校側からの評価も高く、挑戦しがいがありました。

正確な情報蓄積と柔軟な姿勢を堅持

「100年企業」を支える技術者としての目標は、「正確な情報を蓄積し、時代の変化に順応できる柔軟な姿勢で業務に取り組むこと」で、目まぐるしく変化する技術の革新に乗り遅れないよう、自分自身も若手も知見の習得に努めて、対応力を身につけ、現場のレベルアップを図りたいと考えています。

われわれと若手は年代の乖離が見られることから、将来に向け、情報共有をしながら若手のスキルアップに取り組むことが大切だと思っています。そのためには、繰り返し根気強く指導することが必要と、日夜実践しています。

建物が全容あらわす姿に達成感



土木部課長

さとう しょういち
佐藤 庄市古川工業高等学校土木科卒業
昭和58年4月入社 入社歴40年
加美町小野田出身

【北上川水系迫川流域(小川原地区)応急復旧工事】

- ◆河川土工
 - 掘削工・掘削(崩落土砂)34,200㎡
 - 掘削(軟岩)11,670㎡
 - 盛土工・盛土(流用土)23,800㎡
 - 法面整形工・切土法面整形3,900㎡
- ◆水路工
 - シート張・遮水シート張5,960㎡
 - 大型土のう工・大型土のう積2,195個
- ◆道路土工
 - 掘削工・掘削(崩落土砂)6,900㎡
 - 法面整形工・切土法面整形1,840㎡



岩手・宮城内陸地震で被災の小川原地区応急復旧

記憶に残る内陸地震の災害復旧

青森県下北の林野庁発注の林道新設工事が最初の仕事でした。青森ヒバが自生する山奥で斜面がきつく、トランシットを立てるのに2時間もかかり、地元の協力会社から、「あんちゃん、飽きちゃったよ」と言われるほどでした。現場は硬い岩盤で初めての発破は怖かったです。

私は砂防ダムなど林野庁関係の仕事が多く、山間地の砂防・治山・山腹工事を経験しています。あたり前のことですが、工期内に無事故・無災害で完成させることを常に心がけて施工してきました。

平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震の小川原地区応急復旧工事は、県道対岸の山が崩落して河道閉塞が起こり、上流に溜まった水が越流することで土石流を発生させ、下流域に甚大な被害を及ぼすことが予測されました。早急に約600mの迂回水路を掘削し、水を抜く必要がありました。

応急復旧は2週間で完了と指示されましたが、現地での崩落規模に目を疑い、間に合うか不安に駆られたことを今でも覚えています。幸いにも全社一丸で24時間体制をとり、バックホウ約50台を投入し、戦場のような現場体制を組み合わせながら、無事故で水路が迂回できたときは、本当に安心しました。

山地特有の現場力を指導

この仕事を40年続けて思うことは、現場はチームワークが一番だということです。長く山間部での工事をやってきたので、若手には、支障木の処理や立木の傾き、天気、鉄砲水の前兆など、山地特有の現場の叩き方や危険性などを指導しています。

現場はチームワークが一番



土木部課長

おがた ゆきお
尾形 介夫古川工業高等学校土木科卒業
昭和58年4月入社 入社歴40年
加美町中新田出身

【気仙沼地区(復興基盤)農地災害復旧区画整理】

- ◆整地工 A=7.75ha
- ◆農地復旧工 A=6.44ha
- ◆道路工 L=2,637.4m
- ◆用水路工 L=2,638.8m
- ◆排水路 L=3,675.7m



東日本大震災で被災の気仙沼地区最知工区農地復旧

技術者として営農を考え施工

最初の仕事は色麻町の圃場整備の現場で、暗渠排水工事のため水の流れる溝の測量でした。1人での仕事で緊張しましたが、楽しかったです。これまで圃場整備が約15年と長かったのですが、いつも農家が営農するのに不備がないかと、完成後のことを考え施工しています。

東日本大震災の復旧工事では、気仙沼地区最知工区区画整理及び農地復旧工事を担当しました。塩害除去を考えながら、米作のためトラクターで耕運を行い元肥まで入れるという工事です。現場に入った当初は、地元の皆さんから怪しい人が来たと思われ、なかなか作業にかけられなかったり、設計図面と現況が合わず、再測量したりと苦労もありました。

圃場整備では、分水栓の取り付け角度などを工夫しながら、農家からクレームがこない農地をつくることを一番に考え、施工しました。

デジタル化・ICT施工は必須

これからの建設業は、デジタル化・ICT施工が必須で、積極的に取り組まないと取り残されます。

私は入社以来40年間、丸か建設に連れ添ってきたという思いがあります。「継続は力なり」、これに勝るものはありません。定年までもう少しですが、自分の経験と技術を伝えながら、若手の育成に力を入れたいと思います。将来に向け、さらに100年続く企業であって欲しいと願っています。

クレームのこない農地づくりに全力



土木部次長

なかがわ よしかず

中川 良和

古川工業高等学校土木科卒業
平成12年4月入社 入社歴23年
大崎市古川出身

【吉田川上流上舞野西地区河道掘削工事】

- ◆新舞野地区越流堤本体 V=780m³
- ◆同付帯道路工 A=7.170m²
- ◆南岡江地区河川土工 V=2,220m³
- ◆同法覆護岸工 A=2,190m²
- ◆竹ノ内前地区河川土工 V=5,930m³
- ◆同法覆護岸工 A=4,330m²



吉田川上流上舞野西地区河道掘削工事

初の2現場体制を克服し、やりがい

災害復旧漆沢治山工事が最初の現場で、「教えてもらうことだけ、覚えることだけ」の1年間でした。

20歳で結婚し家族がいたので、勉強する時間をどう確保するか、工夫しながら28歳で一級土木施工管理技士を取得しました。

2年前から始まった特例監理技術者制度で、丸か建設として、初めて2現場体制を経験しました。思っているより過酷です。現場の段取り、数量計算と検査書類などを2現場分こなさなければならず、正直、不安も感じましたが、それ以上に達成する喜びややりがいを持つことが出来ました。

現場施工で最も大切なのは工程管理

現場施工で最も大切にしてきたことは、工程管理です。

工程管理は現場管理する上で施工管理全体への影響力が高く、原価管理、品質管理などに直結するとともに、工程遅延やひっ迫を防ぐことにもつながります。工期2ヵ月の突貫工事だった吉田川越流堤工事では、会社の全面的な協力体制のもとで乗り越えることができました。

「これまでのやり方にとられない」ことを、技術者として大切に現場をこなしてきました。上司からはよく「見て覚えろ」と言われました。他企業の技術を盗むことも必要です。そのため私は、よく他社の現場を見に行きます。

最近の若手は、回答をすぐに求めますが、「自ら考えることが大事」という考えで、指導に力を入れています。

現場は明日、明後日、来週の段取りを考えることが重要です。大事な工程管理の判断が出来なくなるからです。

これまでのやり方にとられない挑戦を



土木部次長

よしおか こうや

吉岡 幸也

古川工業高等学校土木科卒業
平成7年4月入社 入社歴28年
加美町小野田出身

【鳴瀬川水系渋井川緊急復旧工事】

- ◆河川土工 掘削工740m³
盛土工2,200m³
- ◆法覆護岸工 袋詰玉石 237袋
- ◆復旧工 復旧盛土 740m³
アスファルト舗装工 59m²
- ◆構造物撤去工 一式 仮設工 一式



鳴瀬川水系渋井川緊急復旧工事

完成時の達成感と仲間の大切さ

最初に配属されたのは、治山ダムの工事現場で、「図面は読めない、完成した姿もイメージ出来ないという状況で、いかに迷惑をかけないように皆についていくか」という思いで一杯でした。ただ事故なく完成したときの達成感は今も覚えています。それが、いまでも私の仕事のやりがいです。

3カ所で決壊した平成27年鳴瀬川水系渋井川緊急復旧は、1週間で仕上げる昼夜3交代の突貫工事でした。各現場担当者、協力会社に助けていただき、早期に完成することができ、この時ほど仲間の大切さを感じたことはありません。

若手技術者に伝えたいこと

常日頃大事にしてきたことは、「チームワークと責任感」です。この仕事は全く同じ条件の現場が無いからこそ難しく、また面白いところでもあると思います。日々変化する現場に対し、作業員さんとコミュニケーションを取ることで一体感が生まれ、突発的な出来事にも対応できます。

今は技術が進歩し、丁張などを設置しなくても施工ができますが、従来の施工に関する知識を疎かにするのではなく、基本をしっかり覚え、それをいつも忘れず、新しい技術習得に取り組み、危機察知能力と感性を磨くことが大切であると、若手技術者に伝えたいです。

丸かを支える若手の育成に注力

災害復旧復興活動

未曾有の東日本大震災や岩手・宮城内陸地震、豪雨・豪雪被害などの近年続発する自然災害に、建設業界あげて災害復旧復興活動に取り組んでいる。丸か建設は地域建設業として、これらの自然災害の復旧復興活動に全社一丸で対応し、地域の安全・安心を守る活動に尽力している。

2011.3
3.11東日本
大震災



東日本大震災三本木災害復旧工事

三陸沖を震源とするM9.0の空前絶後の巨大地震で、大津波により沿岸部は壊滅的な被害を受けた。丸か建設は発災直後から道路の啓開、復旧活動に取り組み、全社員一丸となって復旧復興に対応、地域建設業の使命感をもって役割を果たすことに努めた。

また、ガソリンスタンドを経営していたことから、震災直後から6月まで、国交省の要請で被災地専用の給油所となった。総理官邸決議により優先的に燃料の供給を受け、道路啓開や仮堤防構築のための燃料、排水ポンプ車の燃料などの供給にあたり、タンクローリーを新潟より2台、石巻より2台、丸か建設が2台の6台をフル稼働、奮闘した。



東日本大震災仙台北部道路
利府しらかし台IC～富谷JCT間復旧工事



東日本大震災三本木災害復旧鳴瀬川左岸工事



東日本大震災での復旧活動では、発災まもなく東北道富谷JCT～利府しらかし台IC間の被害箇所を応急復旧させ、被災地への通行路を確保した。利府から大和町への仙台北部道路やジャンクションが通行止となったため、東日本高速道路株古川管理事務所より技術者派遣の要請を受け、社長の陣頭指揮のもと三日間で仮復旧させ、自衛隊と消防、緊急車両の通行を可能にした。



沖ノ田海岸第3治山工事

気仙沼地区の海岸治山工事では、潮の満ち引きに左右され工事時間が制約されるなどの困難を克服し、岩井崎海岸、沖ノ田海岸、野々下・沖ノ田海岸の防潮堤工事を完成させた。また、震災後の農地復旧では気仙沼地区最知工区区画整理・農地復旧工事を施工した。



野々下海岸治山工事



気仙沼地区最知工区区画整理・農地復旧工事

気仙沼災害廃棄処理土木工事(大成建設とのJV)



廃棄物処理プラント



災害廃棄物処理作業



災害廃棄物処理作業

分別置場



東日本大震災で発生した気仙沼市内の災害廃棄物等を、当社を含む大成JVが一次置き場から二次仮置き場へ運搬、中間処理、リサイクル先、最終処分先に運搬し、2014年(平成26年)3月末までに処理完了した。気仙沼ブロック気仙沼処理区においては、災害廃棄物76.6万トン(木くず3.1万トン、粗大・混合32.1万トン、コンクリートくず・アスファルトくず38.9万トン、金属くず0.9万トン、その他1.6万トン)と津波堆積物89.0万トンを処理した。

2008.6

岩手・宮城 内陸地震

岩手・宮城内陸地震小川原地区緊急復旧工事



岩手県内陸部で発生したM7.2の大地震により土石流26件が発生。栗原市小川原地先の県道沿いで河道閉塞が起こり、土石流発生が想定されたことから約600メートルの迂回水路を掘削し水を抜く緊急工事を担当、社を挙げて24時間体制でバックホウ50台を投入して工事にあたり、無事故で迂回水路を完成させた。



小川原地区災害復旧・土砂撤去



小川原地区緊急復旧工事・現場朝礼

小川原地区災害復旧・シート張り



小川原地区の迂回水路

2015.9

関東・東北 豪雨

鳴瀬川水系渋井川緊急復旧工事

9月9日から11日にかけて関東地方及び東北地方で発生した豪雨災害。11日に大雨による洪水で大崎市を流れる渋井川が3箇所で決壊した。国交省が宮城県からの要請を受け湛水排除作業を実施。翌日から緊急復旧工事を一週間で仕上げることとなり、昼夜三交代の突貫工事で完成させた。



鳴瀬川水系渋井川緊急復旧工事



関東・東北豪雨渋井川氾濫

吉田川粕川地区緊急復旧工事



吉田川粕川地区緊急復旧工事



吉田川粕川地区緊急復旧工事



2019.10

令和元年東日 本台風(19)

10月12日に台風19号の上陸により東日本各地で観測史上最大雨量を観測。県内では丸森町で洪水が起こったほか大崎市、大郷町などで吉田川の決壊により浸水被害が発生した。大郷町粕川地区の堤防が崩れたことから緊急の復旧工事を担当し、無事完成させた。

「災害対応マニュアル」に基づき年2回訓練実施

災害時の迅速対応に向け資機材を備蓄

当社は、東北地方整備局や宮城県、NEXCO並びに宮城県建設業協会などと「災害時における災害応急対策業務に関する協定」を締結しており、災害時には発注機関と連携し、被災施設等の早期復旧、被災箇所の被害拡大防止を図っている。

災害への迅速対応は地域の安全・安心の確保に必須であり、災害対応資材倉庫に資機材を備蓄するとともに、「災害対応マニュアル」を作成し、実践的な訓練を年2回実施している。さらに、社内に避難所を設置するなど地域住民の避難対策にも力を入れている。



災害訓練



安否確認



本社点検

炊き出し訓練 実施状況 R3.8.21



ボランティア活動と地域支援・人材育成

多彩なボランティア活動

◆みやぎスマイルサポーター

10年以上にわたり、会社周辺のゴミ拾い、除草、花の植栽などの環境美化活動を展開している。

令和4年8月1日、2022道路ふれあい月間道路愛護分野において国土交通大臣より感謝状を受賞している。



みやぎスマイルサポーター

◆献血活動

◆森林ボランティア活動

◆「みんなでつくる3Aの防災林」植樹活動

◆中学生高校生の現場実習生の受入

◆近隣小学校等への協力

◆消防団協力事業所認定

◆AEDの設置

◆子供110番

◆みやぎっずルブル



献血活動



小学生の植樹活動



森林ボランティア



中学生職場体験

中学生職場体験



消防団活動支援

多彩な安全活動への取り組み

当社は「いかなる場合においても人命尊重を第一」とする社訓のもと、建設工事に伴う災害・事故の撲滅を目指して多彩な安全活動を展開、日々安全最優先の活動を徹底し、社業に邁進している。

◆安全衛生委員会
◆安全衛生推進大会

◆安全研修
◆安全パトロール

◆安全祈願祭
◆安全朝礼



安全パトロール



安全朝礼



安全祈願祭



墮落制止用器具実地訓練

「ワークライフバランス」の実現に向けて

全ての社員一人ひとりが快適で働きがいや充実感のある職場づくりを目指すとともに、仕事以外の生活との調和を実現していくことが重要との考えのもと、当社はその実現に向け様々な活動を展開している。ワークライフバランス推進のための制度を充実させ、実行に取り組んでいる。

- ◆有給休暇取得率の向上
- ◆時間外・休日勤務の削減
- ◆心と体の健康づくりの推進・健康経営推進
- ◆仕事と家庭の両立支援策
- ◆子育て支援
- ◆女性の活躍推進
- ◆シニアの就労促進
- ◆障がい者の雇用
- ◆福利厚生充実
- ◆サークル活動(野球、ゴルフ、釣り)への支援

社会に感謝し、地域とともに歩み続ける 100年企業をめざし、地域社会に奉仕

持ち株会社としてグループの事業指針を示す

株式会社丸かホールディングス

平成26年5月に株式会社徳和不動産として設立、翌年株式会社丸かホールディングスに社名変更した。丸か建設グループの持ち株会社で、各社に事業指針を示すとともに、グループの連携と協力体制の構築を進めている。傘下各社に、スピーディで高品質の製品を顧客におさめる指導管理の中核機能を負っている。

主な業種は不動産賃貸管理業。

- ◆本社／宮城県加美郡加美町字赤塚37
- ◆電話／0229-63-6568



- ◆業種／不動産賃貸管理業、グループ企業の指導管理
- ◆資本金／100万円

不動産の貸付管理と販売・仲介、資材販売に特化

株式会社マルカ商事

昭和39年1月に株式会社マルカを設立、昭和61年10月に有限会社マルカ商事となる。昭和28年4月合併・商号変更等を経て株式会社マルカ商事を設立。

主な業種は不動産の賃貸管理と販売・仲介のほか、土木建築資材の販売に特化している。昭和40年2月に仙台市に「徳和ビル」を建設。昭和58年1月に購入した「花京院ビル」は、昭和63年に貸事務所と共同住宅を備えたビルに解体・新築し、業務拡大を図っている。

- ◆本社／仙台市青葉区花京院2丁目1番62号(花京院ビル3F)
- ◆電話／022-343-8813
- ◆業種／不動産の貸付管理、不動産の販売・仲介、建設資材の販売斡旋



花京院ビル

木材部がルーツで建設業、資材販売、清掃業など営む

株式会社徳和

昭和32年7月に株式会社徳和のルーツとなる丸か建設に木材部が併設され、昭和39年7月に木材部を分離独立して、宮城製材工業株式会社を設立。昭和43年8月に同社を丸か木材工業株式会社に商号変更。平成13年7月株式会社徳和に商号変更し、現在に至る。

主な業種は建設業、土木建築資材販売、清掃業、損害保険代理店。

- ◆本社／宮城県加美郡加美町字赤塚42番地2
- ◆電話／0229-64-2361
- ◆業種／建設業、土木建築資材販売、清掃業、損害保険代理店
- ◆資本金／1,000万円



高品質求め、丸か建設生コン部として創設後に独立

丸か生コン株式会社

昭和44年5月に丸か建設株式会社生コン部として創設、同年9月に創業を開始した。最大日産864m³を誇り、昭和46年8月日本工業規格表示許可申請、昭和47年5月通商産業大臣許可第272007号を経て、大崎生コン協同組合、宮城県生コンクリート協同組合に所属。

昭和56年4月に丸か建設より分離独立し、丸か生コン株式会社を設立した。

平成23年6月に設立された(株)大崎共同生コンに出資し、生コン製造の集約が図られた。

- ◆本社／宮城県加美郡加美町字赤塚104番地の2
- ◆業種／生コンクリート販売
- ◆資本金／1,000万円

マルカ商事・仙台支店スタッフ



仙台市青葉区花京院2丁目1番62号(花京院ビル3F)

青森支店



青森市富田4丁目25番25号
TEL・FAX 017-781-0911

特集 ◆ 未来編

Special Feature Future Edition

次なる時代を見据え、

「ネクスト丸か」世代の力に期待！

創業から100年。丸か建設はいつの時代も地域インフラの担い手としての期待に応え、その使命を果たしてきました。東日本大震災をきっかけに建設業の重要性が再認識されていますが、業界内部に目を向けると、担い手不足、DX推進、ICT化といった生産性向上への取り組みや働き方改革に向けて週休二日制導入によるワークライフバランスの実現など、クリアすべき課題が山積しています。

丸か建設で働く二十代の若手はどんなやりがいを感じ、これらの問題をどう乗り越え、未来に向かおうとしているのか。次の100年を担う「ネクスト丸か」世代に、会社の将来像への期待、改善改革への提案、自身の夢や希望などを聞きました。

未来へ



司会 ささき よしまさ
佐々木 功真
取締役

ちゅうばち ひろまさ
中鉢 仁大

土木部 入社11年 29歳
小牛田農林高等学校卒業

いどう だい
伊藤 大

土木部 入社10年 28歳
小牛田農林高等学校卒業

ながうら けんしん
永浦 剣心

土木部 入社5年 23歳
古川工業高等学校卒業

あびこ けん
我孫子 弦

土木部 入社4年 22歳
古川工業高等学校卒業

かどう かずし
加藤 和志

建築部 入社11年 29歳
古川工業高等学校卒業

おがた れん
尾形 蓮

建築部 入社7年 25歳
古川工業高等学校卒業

たかはし しょう
高橋 翔

土木部 入社3年 21歳
古川工業高等学校卒業

復興での活躍が入社の決め手に 働き易く、アットホームな職場環境

司会(佐々木取締役) はじめに、入社のも機と入社後の職場印象について、それから現在担当している現場は

中鉢 入社したのは担任の先生に勧められたからです。何も考えずに飛び込んだので、入社後ギャップを感じることは特にありませんでした。現在は青森のむつ市で、21年夏の豪雨災害で崩落した葉色山の復旧工事に従事しています。

伊藤 高校の先生に勧められて会社見学をした時、対応してくれた方の話が面白く、現場事務所内の雰囲気良かったことが決め手になりました。昨年12月まで古川東バイパス関連工事を担当しており、完了した今は別の古川東バイパス関連工事に携わっています。



司会 佐々木 功真

永浦 会社のパンフレットを見たら、釣りクラブがあったので、迷わず入社しました。建設業に対して特にイメージを持たずに入社しましたが、会社のほとんどの人が優しく「アットホームな会社だな」と今も思っています。社内に私と同じく釣りが趣味の先輩がおりますが、仕事を教えてもらえるだけでなく、プライベートでも一緒に過ごすことがあります。会社全体で面倒見の良い人が多いところが家族的だと感じ、生活がエンジョイできています。今は前の現場が終わって、会社で待機中です。

我孫子 求職で地元企業を探したところ、丸か建設には高校の先輩方が数多く在籍しており、近年の入社3年間の離職率がゼロでした。先生方の評判も良かったので、勧められるままに入社しました。もっと社員の年齢層が高いと思っていたのですが、意外に若い人が多く、コミュニケーションが取りやすい環境で良かったです。現在は、宮内稲葉地区道路改良工事に携わっています。

高橋 入社したのは、高校2年生の現場実習で丸か建設の現場を訪れ、「この会社なら頑張れそうだな」と思ったからです。それから、会社が家から近かったのも大きかったです。入社前は「作業員のように、重機に乗って仕事をするのがメインかな」と思っていたのですが、実際は現場監督として現場に関わっているので、そこがイメージと違っていました。一緒に働いている人たちが優しく、働き易い職場環境だと実感しています。現在は、古川の三日町道路改築工事に携わっています。

加藤 入社のキッカケは職場体験への参加でした。もともと建物を造ってみたいという気持ちもありました。入社前に描いていたイメージと入社後のギャップは、とても大きかったですね。入社前、会社には「マニュアル」的なものがあり、新入社員でもそれを見ればある程度できるようになっているのかなと想像していたのですが、そういうものはなく、何もわからないまま配属された現場で、見聞きし覚えなければなりませんでした。OJTと言えはかっこいいのですが、「若手を育てる仕組みが欲しいな」と感じたこともありました。忙しいのはわかりますが、質問しても返答をもらえなかったりしたこともありました。今は名取市の下増田公民館・児童館の合築・移転改築工事に携わっています。

尾形 母の実家が東松島市で、東日本大震災の時に大きな被害を受けました。その時、復興作業にあたっていた丸か建設の皆さんを見ました。感激しましたね。その働きを見て、「ここに入社しよう」と強く思いました。入社後は土木に半年間在籍し、その後建築に移りましたが、分野の違いのギャップを痛感しました。建築は最初からきつく、厳しい環境で揉まれます。でも、その厳しい環境のおかげで今でも続けてこれたのかなと思っています。アットホームと感じられるところは、建築と土木は分野が全く違い、業務上で交わる機会はほとんどないのですが、若

手で集まることも多く、本当に仲が良いです。先輩方がとても優しいです。現在、私は色麻町の王城寺原演習場の改修工事に従事中です。

現場や能力に報いる待遇を 人事考課など新たな改革へ

現在、課題と思うことと会社に改善して欲しいところは

永浦 現場には今までの経験でなんとかこなせる現場、新たな技術を学びながら進めていく現場などいろいろありますが、現場の難易度や状況に応じた待遇になっていないので、そこは改善してほしいです。

尾形 私と加藤さんは同年代ですが、それより上となると自分の親世代。かなり年の差があります。なので、ベアを組む時には組み合わせをよく考えてほしいです。建築では私の先輩の社員数名が途中で辞めてしまいましたが、世代のギャップや強い口調での叱責が原因かもしれません。

加藤 人事考課など、近年会社はさまざまな改革を試みていると思います。入社当時、人事考課はダメな点を指摘されるばかりで辛かったのですが変わってきています。

入社して2、3年目に「大和(たいわ)塾」という社員育成の勉強会が始まりました。最初は各々が研究テーマを掲げ、それについて調べてきたことを発表する会でしたが、途中からグループ制になり、ディスカッション形式になっていきました。

「とりあえずやってみる」という具合なのでトラブル



加藤 和志

も発生しています。その都度、社員みんなが振り回されてきた感じもします。

伊藤 上司の経験談なども話してもらい、社内のコミュニケーションを活発化するような取り組みでしたが、結局、いつの間になくなりましたね。



尾形 蓮

尾形 仕事の合間に調べものをしなければならず、結構大変だったので、「現場の負担を増やすぐらいだったらやめよう」となったのだと思います。

伊藤 1人で調べて発表する分にはよかったのですが、グループ制になってからは一番年下の人や資料作成が得意な人が主体となって資料を作る形になって、一部の人だけの負担が大きくなりました。

チャレンジの失敗を学びの糧に 経験積み、面白味とやりがい感

印象深かった仕事、失敗への経験談と対処の仕方は

伊藤 初めて経験する内容の公共工事に配属された時、上司から「現場のかじ取りをやってみなさい」と言われました。うまくいかないこと、予定通りに進まないことが多く発生しましたが、その都度上司に相談し、フォローしてもらいながら工事を完成することができたのはとてもよい経験になりました。後輩の働きにも助けられました。

入社3年目の圃場整備の現場は厳しかったですね。工区が3つあり、先輩・後輩とともにそれぞれ1工

区ずつ割り当てられましたが、資格もなく、何も分からない私が下請けとの調整など多くのことを一人でやることになりました。製図ソフトA-NOTEの操作方法をはじめ、教えてほしいことは「自分で調べろ」と突き放され、途方に暮れました。同期や前の現場でお世話になった先輩に助けられました。

尾形 私の失敗は忘れもしない、入社2年目の夏でした。小さなテント倉庫を建てたのですが、基礎のレベルを間違えてしまい、全部壊す事態に。その時は、上司の専務をはじめとする上役全員と一緒に発注者に謝りにいってくれました。工期内に終わらせるための人の手配など、事後のことにまで迷惑をかけたので、「二度とこんなことをしては駄目だ」と猛省しました。



高橋 翔

高橋 私もレベルで床ずりの高さを間違え、生コン打設を2〜3日遅らせてしまったことがあります。上司には「1年目だし、気にしないでいいよ」と言われたのですが、自分にとっては大きなダメージでした。それ以降は何回も計算したり2回確認したりして、同じ失敗をしないように気を付けています。今後は、失敗した時のリカバリー力も磨き、仕事に生かせるようにしたいです。

加藤 私の場合も、今話があったレベルの違いや、材料の未調達やら、やらかした失敗は数限りなくあります。ほぼ毎日失敗しているような状況でしたが、ある時、上司から「チャレンジしないより、チャレンジして失敗したほうが身になる」と言われたんですね。その言葉によって、失敗を少し前向きに捉えられるようになりました。

我孫子 入社4年目にしてようやく1人で計算、丁張

掛け、測量をすることが増えてきました。その中でミスなく、思い描いたとおりに構造物ができていった時にやりがいを感じます。

永浦 私が入社5年目にして現場を任せられる立場になりました。自分の意見を通して現場を回せるようになったので、仕事に面白みややりがいを感じています。

土木はICT施工込みの発注 IT化は建土の開きが課題

建築と土木別のIT化への対応は

伊藤 土木ではICT施工をやっていますが、不十分などところが多いです。機械は確かに賢いかもしれませんが、決められたことしかできません。不具合も起きやすいです。中にはもっと高性能のものもあるのですが、応用力という点では人間のほうが勝っている気がします。

加藤 建築ではほとんどICTを使ったことがありません。取り組もうにも、社内に知識のある人がいませんし、休みが少ない中、講習を受けに行くのも難しいのが現状です。実際、ICTを見込んでの入札もありません。

伊藤 その点、土木は最初からICT施工を見込んでの発注になっているので、取り掛かりやすいのだと思います。

ICTもそうですが、役所では最近、さまざまな簡素化に取り組んでいます。ただ困るのは、担当者によって簡素化の認識が違うこと。「前の人は要らないって言うっていたのに、この人は要るんだ」ということが結構あるので、簡素化の中身を統一してほしいです。

加藤 土木はASP(工事情報共有システム)が基本になっていますが、建築ではほとんど聞いたことがありません。

伊藤 土木では国交省管轄工事の場合、書類の紙出しはほぼなく、電子でのやり取りが多いです。

尾形 建築では、ほぼ紙でのやりとりです。

伊藤 建築でASPをやっていないことを初めて知ったので、驚きました。

地域建設業は災害時に不可欠 地域の役に立つ人材に

東日本大震災や宮城・岩手内陸地震などの災害復興に果たす地域建設業の役割と使命、地域貢献については

高橋 東日本大震災が起きた時、私はまだ小学3年生でしたが、ニュースで復旧作業の様子を見て、「がれきは自衛隊でも撤去し切れない。建設業じゃなきゃ駄目なんだ」と、建設業の役割の大きさを実感しました。

あれから12年がたち、次第に復興してきている状況ですが、今後また、いつ、大きな地震や大雨に見舞われるか分かりません。その時に必要とされ頼られるのが建設業なので、そうした局面で地域の役に立てる人材になりたいです。

我孫子 中学3年の時に大雨で家の近くの渋井川が決壊し、自宅の近くまで水が迫りました。幸い自宅は被害に遭いませんでした。友達がベランダからヘリコプターで救助されるなど、地域は大変な状況でした。入社2年目に偶然、渋井川の災害復旧工事に携わることになり、地域の住民を助ける仕事をしていることを実感しました。これからは使命感を持って仕事に携わっていききたいと思います。

永浦 この業界に入ったことで、大雨が降るとパトロールや内水排除などをするようになりました。直接的な救助ではなく、浸水被害防止という位置付けの仕事にはなりますが、それも一つやりがいとして感じています。

伊藤 河川の維持工事では台風や大雨で増水した河川のパトロール、内水の排除作業に携わりますが、その事前準備として、使う機械の点検は日常的に行っています。社内にパトロールの班を6班つくり、年1回河川パトロールの訓練を実施しています。協力業者にも「万が一の時はお願い」と話を通しておいて、有事に備えています。

尾形 東日本大震災で母の実家が被災したので、結構悲惨な現場を目にしました。災害時には建設業の働きが必要不可欠です。そうした場面で迅速に対処できる人間になりたいし、会社も一刻も早く現場に

駆け付けられるよう、連絡網を整備するなどの取り組みが必要だと思います。

中鉢 中学3年の時、岩手・宮城内陸地震が発生しました。ちょうど陶芸の里スポーツ公園の陸上競技場で中総体の開会式を行っている時でした。その時は「地震なんて自分には関係ない」と思っていたのですが、会社に入ってから栗駒、花山の現場に携わることになりました。そこでの復旧工事は平成30〜31年頃まで続いたので、「全然関係ない話じゃなかったな」と、遅ればせながら思われました。

災害が起きると復旧のための予算がついて工事が発注されますが、復旧が終わると倒産する地元業者が出てくる可能性があります。すると、次に災害が起きた時に復旧に従事する業者が不足するので、継続的な工事発注、災害に対応できる業者の存続は今後大きな課題になってくると思います。



中鉢 仁大

本来の週休二日制の実現を モチベーション上げ張り合い

国が進める働き方改革やワークライフバランスの実現について、また週休二日制を阻んでいる要素は

中鉢 私が入社した当時は「みなし残業」で、時間外手当は15時間分と決まっていた。その後、申請方式が導入され、名目上は「残業しただけ出す」ことになりました。上司も、申請を許可したら許可したので、「なぜ、そんなに残業させているんだ」と責められますし。われわれ土木よりも、建築のほうが残業

時間は多いですね。

加藤 そうですね。常に時間外をしている感じです。

中鉢 たとえ週休二日制が導入されたとしても、仕事量は変わりません。土日の分が平日に上乘せされるだけです。そうしないと現場が進まないの。職員から不満が出ないのですが、本来的な意味での週休二日制の実現を望みます。

伊藤 社内の休日作業届で振休日を記載する欄がありますけど、現場が忙しい中で振休取得は難しいですね。有給休暇の取得促進も言われますが、工事が完成したタイミングで連続してとることができればうれしいのですが、工事完成前に次の現場が決まっている場合もあり、そういう場合は厳しいですね。

中鉢 直近だと、私は1週間くらい休暇を取りましたね。

加藤 建築もそのぐらいのインターバルが取れるよう、仕事を調整してもらえるとありがたいです。

永浦 土日に何か予定があると、「そのために仕事を頑張ろう」とモチベーションが上がります。「自分の時間イコール全部仕事」にならないためにも、ぜひ週休二日制を導入してほしいし、私たちも仕事とプライベートとのバランスを意識的に取っていくことが大切だと思います。



伊藤 大

伊藤 週休二日制が定着しない一番のネックは発注者の工期設定です。週休二日を推奨するならば、当初からそれを加味した工期を設定してほしいですね。

加藤 工期が年度末に集中しているのが問題です。工期をもっとばらけさせれば他の現場から応援に来てもらえますが、年度の前半は仕事が薄く、後半にかけて次第に厚くなる発注形態なので、そうもいきません。これは会社サイドだけでは解決できない

問題だと思います。

中鉢 大事なのは工期設定と予算ですね。工期が長くなってもその分の費用がかさみ、利益が少なくなるとは元も子もありませんから。工期と予算のバランスが確保できたらいいのですが。

加藤 落札するには入札価格を低く抑える必要があるの、難しいですね。

業界あげて負のイメージの払拭を 賃金体系改善と適切な工期設定

発注者、建設業協会への要望は

伊藤 「建設業=土方」のイメージって、いまだにあると思うんですね。そういう負のイメージを払しょくするため、建設業協会には建設業の仕事の中身や良さをどんどんアピールしていったほしいです。

加藤 仕事の種類・質・量が増える一方、建設業に入ってくる人の数は減り続けています。近い将来、まるっきり人が入らなくなる可能性もあるので、業界のイメージアップを図り、賃金体系を見直すことは必須だと思います。

永浦 週休二日制を実現するには、下請さんの賃金体系を変えないと。元請の丸か建設が週休二日制に移行しても、下請さんが日給のままだったらかみ合わないの、建設業全体で取り組んでいくべき大きな問題点かと思います。

それと、先ほども出ましたが、発注者には適切な工期設定をしてほしいです。丸かだけでなく、下請さんたちのワークライフバランスにも影響が出るので、その辺の理解と改善を強く望みます。

スキルアップと時代への対応力 「ネクスト丸か」で次世代につなぐ

最後に、「100年企業丸か建設」の将来像、自分の未来像など夢と希望は

加藤 100年という長い間会社が続けてきたのは、

過去に在籍していた方々のものすごい努力の賜物に他なりません。今後、仕事が増えるか減るか、見通しは定かではありませんが、150周年、200周年を迎えられるよう、後輩に技術を継承し、同僚と仲良く協力し合いながら頑張っていきたいです。

中鉢 先人の努力のおかげで100周年を迎えられるので、私たちは200周年を目指して、さらにつないでいかなければならないと思います。

伊藤 われわれ30歳以下の世代は人数が多いので、横のつながりを大事にし、みんなで会社を支えていけたらと思います。特に、工事件数の減少に伴い受注競争が激化している中では、「次の100年」と長いスパンで考えるよりも、目の前の仕事を着々とこなし、それをしっかり積み重ねていくことが大事だと思います。そのためには、1件1件の工事成績や技術者の点数を上げることが必須です。この座談会の参加メンバーがベテランの域に達した時、会社としてさらにレベルアップして安泰になっているよう、今後も頑張りたいと思います。

尾形 今後の100年に向けて、後輩に技術の継承をしていきたいです。自分たちがつくったところがグーグル・マップや地図に載れば「すごい仕事をした」と感じますし、後輩たちにも「こういう現場があったんだぞ」と胸を張って話せるので、そういう地図に残る仕事を継続してやっていけたらと思います。私が目指すのは、仕事に関わる人全員の潤滑油になることです。部門間も含め、会社全体がうまく回るような役目を果たしていきたいです。

我孫子 ネットで100周年を迎えた会社を調べてみたら、知っている会社が結構あって、「すごいことなんだな」と改めて実感しました。自分が入社してから



我孫子 弦

の4年間だけでも、災害、人の入れ替わり、多種多様な現場などを体験しました。これから先もいろいろなことがあると思いますが、柔軟に対応できる人間になっていきたいです。

永浦 100周年を迎えられたことに対し、今まで歴史をつくってきた先輩たちに感謝です。いいものは引き継ぎ、改善すべき点は改善し、時代に合わせて新しいことにも取り組み、丸かの社訓にもあるように、「全社一丸となって改善改革を成し遂げる」ことで、200周年、300周年へと次の世代へつなげていきたいと思っています。



永浦 剣心

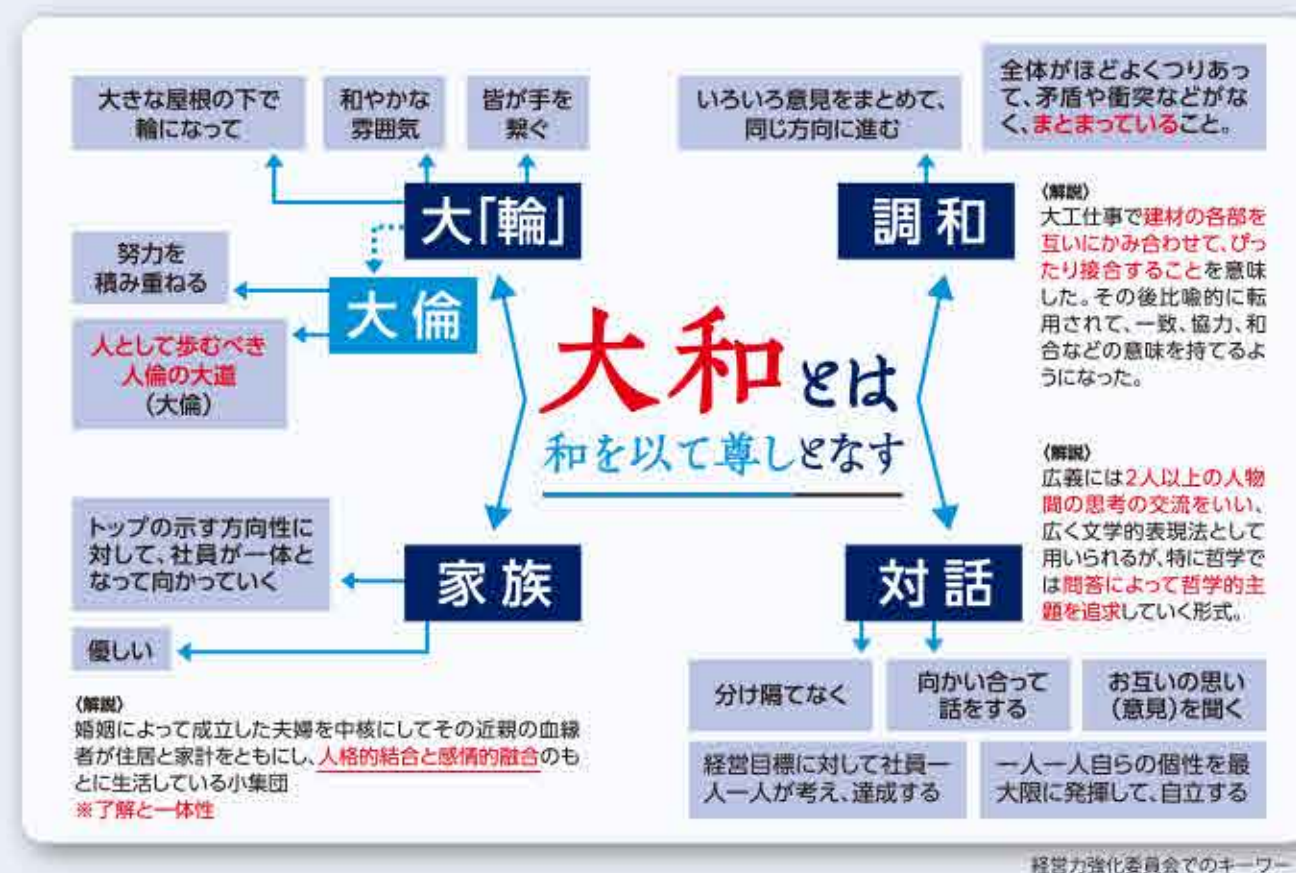
高橋 これから3年、5年、10年と時間を積み重ねていく中で、「あんなことがあったから今があるんだよね」と思い返せるような足跡を残していけたらと思います。また、「ネクスト丸か世代」としては、若い力を生かしてどんどん新しいことを吸収し、スキルアップに励み、何年後かには丸か建設を引っ張っていける、次の時代を見据えて会社から必要とされる人材になりたいと思います。

佐々木取締役 それでは、私からも一言。丸か建設は、初代勘治社長の時代から「家族的」な雰囲気を実感してきました。従業員が少ない頃は、社長宅でご飯を食べさせてもらい、そこからみんなで現場に出ていったという話を聞いたことがあります。人が増えたので今はそういうことはできませんが、アットホームな雰囲気は大切に引き継いで、これからさらに100年、200年と歩みを進めていけたらと思います。常務がたまに言いますよね。「千年続く会社があったらカッコいいよな」と。永久に存在し続けられるよう、みんなで力を合わせて頑張っていきたいです。

「100年企業丸か建設」として、 その先へ — 過去そして現在、未来へ挑戦 —

「100年企業丸か建設」は、顧客から信頼される安心と確かなクオリティの提供を目指し、地域の思いを形に変えて、クライアントのご期待に応えるよう、その先に歩みを進めている。

丸か建設株式会社



chapter1 /

WGで組織風土、企業文化を再認識

「経営力強化委員会」で意見集約

丸か建設は平成24年に、四代浩章社長の肝いりで、それまでの年功序列を重んじる人事制度から脱却し、能力・実績により登用される制度へ移行した。

「社員が正當に評価され、将来の自分の有様がイメージできるようにしたい」という社長の思いを活かし、本人との面接など多くの情報を共有することで、的確に待遇される制度として定着してきた。

しかしながら、令和に入り制度疲労が指摘されるようになり、「仕事はやって当然だから評価は普通のB」という不適切な考え方が広がって良い評価が得られず、普通の評価に偏る「中心化傾向」が進んだ。面接では悪い点の指摘のみがクローズアップされ、前向きな考えになれない状況となっていた。

平成31年に就任した佐々木一暢常務は、社員のヒアリングを実施するとともに従来の制度の間

題点を抽出し、「人事考課制度」の改革に取り組んだ。次長以下の中堅・若手社員で経営改善を進める「経営力強化委員会」を立ち上げ、その最初のミッションが「人事考課制度」改革となった。

この人事制度改革の支援をお願いした七十セリサーチ&コンサルティング株式会社の提案により、社は「大和」の再定義と2つのワーキンググループによる人事評価制度の見直しを進めることとなった。主体的に忌憚のない意見を出し合える機会をつくり、意見を集約していった。

人事考課の目標としては、①社員育成につながる人事考課②各階層に求める要件の明確化③公正・公平な評価④積極的な人材活用・登用を掲げ、「大和」の再定義を活かし、経営力強化を図った。

人事考課の目標としては、①社員育成につながる人事考課②各階層に求める要件の明確化③公正・公平な評価④積極的な人材活用・登用を掲げ、「大和」の再定義を活かし、経営力強化を図った。



chapter2 /

「丸か建設」が求める社員像を具現化へ

独自の「人事考課表」を考案

「経営力強化委員会」では、はじめに、社は「大和」の持つ意味について整理していった。結果的に「大輪」「家族」「調和」「対話」の4つのキーワードが導きだされた。

創業当初から謳われてきた「大和」を自分たちがどう捉え、社是として大切にしていけるかを話し合ったことは、将来を担う社員が今後の自分たちが進むべきビジョンを考える良い機会になった。

経営承継における最重要課題は、新しい経営者と社員の関係性を確立することであり、強化委員会が大きな役割を果たしている。さらに、組織風土、企業文化についての良い点、悪い点を抽出する中で、必要な社員像をまとめていった。

最終的に求める社員像をもとに、「人間性」、「取り組み姿勢」、「コミュニケーション」、「業務遂行能力」、「指導・支援」について等級ごとに整理し、

独自の「人事考課表」を作成した。人事考課表には、このような人材になって欲しいという願いが込められている。

令和3年5月の人事考課から運用が開始され、これにあわせて給与体系もより評価が反映され、頑張っている社員に報いるように改正を行った。



次世代型「新社屋」が完成



chapter3 /

100年企業が挑戦する快適空間の実現

創業100周年記念事業の一環で計画された新社屋は、加美町のランドマークを目指すサステナブルな建築をねらいに、モダンでスタイリッシュな外観と高い機能性、働き易さを追求したデザインの建物に一新された。

新社屋建設のプロジェクトリーダーを任された一暢

常務は、伝統の重みと責任感を背負い、社員の声を反映させることに留意しながら、「上質な仕事ができる快適空間の実現」を目指した。

未来に向けて「100年企業丸か建設」がもつ技術力を結集し、人とのつながりを感じる快適空間の創出と地球環境にも配慮した次世代型の新社屋として完成した。

機能的で快適、堅剛な構造がコンセプト

設計を担当した鈴木弘人設計事務所の鈴木弘二代表取締役は、新社屋の建設計画にあたり「機能的で快適、オープンな空間、スタイリッシュな形態、防災拠点となる堅剛な構造の次世代型オフィスと広々としてフリーな配置の執務空間の創出、従業員ファースト」をコンセプトにプランニングした。

新社屋はZEB Readyを視野に、地中熱を利用した冷暖房システムを整備することで環境配慮型のオフィス空間となっている。さらには、災害の多発化に対応し、地域住民の一時避難所として機能できるスペースの確保に配慮し、災害支援や地域貢献に役立つよう強固な構造にプランニング。設計の意図として、快適空間により生み出される「多様な社員の原動力」に期待しているという。



先進技術で地中熱利用の空調システム

地球環境に配慮した新社屋作りにチャレンジしたいという思いから、再生可能エネルギーである地中熱を利用した空調システムを採用した。

このシステムは、年間を通し15℃と温度が一定の地下55メートルの地中を利用し、夏は外気より温度の低い地中に熱を放熱し、冬は外気より温度の高い地中から熱を採取する。これにより省エネ効果と二酸化炭素削減が期待でき、自然環境への配慮とともに先進技術の先駆けとなる挑戦的な試みとなった。さらに、快適な執務空間を実現するため、「輻射式床下空調システム」を導入した。これは天井吹出方式でみられる直接肌に風が当たることや温度ムラによる不快感を軽減するために採用したもので、床ダクト方式で床下が蓄熱帯となり、空調負荷の抑制と迅速な立上りが可能となるシステムである。



フリーアドレス方式採用し会社を一体化

新社屋は、鉄骨造3階建延べ床1,044平米で総工費が約4億円余。1階は南側が全面ガラスのカーテンウォールで、吹き抜けのエントランスが解放感と明るい雰囲気演出している。



1階オフィスは総務室、社長室兼応接室、エントランス・多目的ホール、来客対応の応接室などを配置。階段を上った2階はどの机でも仕事ができ、従業員同士のコミュニケーションが取れ、会社の一体感が醸成できる「フリーアドレス方式」を採用。同フロアには会議室も設置。3階は福利厚生を重視し、休憩時間を過ごせるリフレッシュスペースやバルコニーを配置している。

モダンな外観と内外装のデザインを一新



快適な職場環境を実践、認証を受ける

※関係資料は資料編に収録

「働き方改革」へのあくなき取り組み

「100年企業丸か建設」は、「より働き易く、この会社に入りたい」「この会社の社員で良かった」と思える職場環境の充実を目指し、100周年記念事業の一環として「働き方改革」に取り組んでいる。

特に健康経営、子育て支援、女性活躍推進への取り組みについて、それぞれ国、県から認定・認証を受けている。

01 健康経営優良法人

2021年3月4日 日本健康会議から初認定

健康経営は従業員の活力向上や生産性の向上など、組織の活性化と仕事の満足度向上をもたらし、結果的に業績向上につながると期待されている。

不健康による労働生産性の損失コストは非常に大きいことから、当社では社員の健康を経営施策として考え、社内歩数アップチャレンジなどの企画や人間

ドック受診制度新設など、社員の健康維持・増進に向け、積極的な取り組みを行っている。

2021年（令和3年）3月4日に、経済産業省所管で健康経営の普及促進に努めている日本健康会議より、「健康経営優良法人」として初認定を受けた。

02 くるみん

2022年8月2日 厚生労働省から初認定

次世代育成支援対策推進法（平成15年7月成立）では、労働者の仕事と子育てに関する行動計画を策定し、目標を達成するなど一定の要件を満たした場合、「子育てサポート企業」として厚生労働省から「くるみん認定」が受けられる。

当社は、「育児休業・介護休業等に関する規定」を全面改定し、有給の「子の学校行事参加休暇」「看護

休暇・介護休暇」など、育児・介護休業法を上回る、より利用しやすい制度を導入している。

また、労働時間の短縮や年次有給休暇の取得促進、ワークライフバランスなど職場風土の改革に関する研修などを実施している。

その結果、2022年（令和4年）8月2日に、厚生労働省から「くるみん」の初認定を受けた。

03 女性のチカラを活かす企業

2021年3月1日 宮城県から初認証

宮城県では、「女性のチカラを活かす企業認定制度」を設け、働きやすい職場づくりやワークライフバランスに取り組む企業を応援している。

当社では、これまで女性社員の昇進・昇格が少なく育成が遅れがちで、管理職を目指す女性が少ないという状況にあった。これらの課題を解決するため、女性自身の意識改革を目指す研修の実施や人事考課での育成強化に取り組んできた。「女性のチカラ

を活かす企業」の認証制度は、女性の登用・配置状況や仕事と家庭の両立支援に関するチェックシートにより一定基準を満たした場合知事が認証している。

当社は、ポジティブアクションの考え方に基づき男女格差の是正に取り組み、女性の登用・昇格昇進が増加していることが認められ、2021年（令和3年）3月1日、宮城県から初認証を受けた。

特集 ● 資料編

Special Feature Document

会社概要 Company

- ◆社名 丸か建設株式会社
- ◆代表者 代表取締役 佐々木浩章
- ◆資本金 3,000万円
- ◆創業 大正13年3月
- ◆設立 昭和28年3月
- ◆登録 特定建設業・総合工事業 国土交通大臣許可(特-1)第22110175号
一級建築士事務所 宮城県知事登録 第17110189号
品質マネジメントシステム ISO9001:2015(JISQ9001:2015)
- ◆本社 〒981-4264 宮城県加美郡加美町字赤塚37番地 TEL 0229-63-2101 FAX 0229-63-2102
- ◆支店 仙台支店
〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院二丁目1番62号(花京院ビル3F)
TEL 022-221-4411 FAX 022-221-4413
青森支店
〒038-0004 青森県青森市富田4丁目25番25号 TEL 017-781-0911 FAX 017-781-0911
- ◆営業種目 土木工事業、建築工事業、大工工事業、左官工事業、とび・土工事業、石工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業、鉄筋工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、板金工事業、ガラス工事業、塗装工事業、防水工事業、内装仕上工事業、造園工事業、建具工事業、水道施設工事業、解体工事業
- ◆取引銀行 七十七銀行、仙台銀行、古川信用組合、きらやか銀行、三菱UFJ銀行
- ◆関連会社 株式会社丸かホールディングス 〈不動産賃貸管理業、グループ企業の指導管理〉
本社／宮城県加美郡加美町字赤塚37番地 TEL 0229-63-6568
株式会社マルカ商事 〈不動産の賃貸管理、不動産の販売・仲介、建設資材の販売・斡旋〉
本社／宮城県仙台市青葉区花京院2丁目1番62号(花京院ビル3F) TEL 022-343-8813
株式会社徳和 〈建設業、土木建築資材販売、清掃業、損害保険代理店〉
本社／宮城県加美郡加美町字赤塚42番地2 TEL 0229-64-2361
丸か生コン株式会社 〈生コンクリート販売〉
本社／宮城県加美郡加美町字赤塚104番地の2

社会に感謝し貢献できる一〇〇年企業を目指して



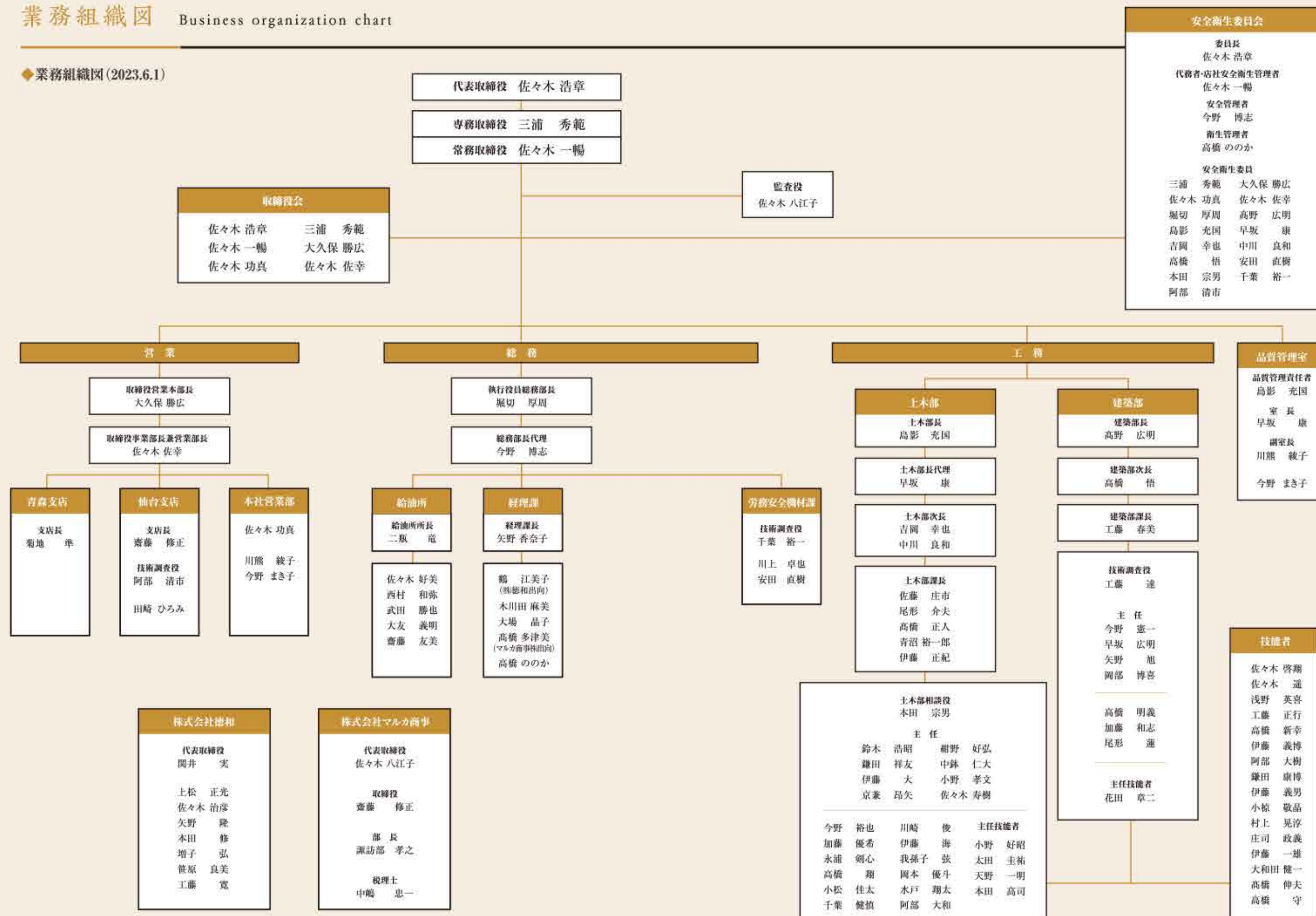
経営スタッフ management staff



業務組織図

Business organization chart

◆業務組織図(2023.6.1)





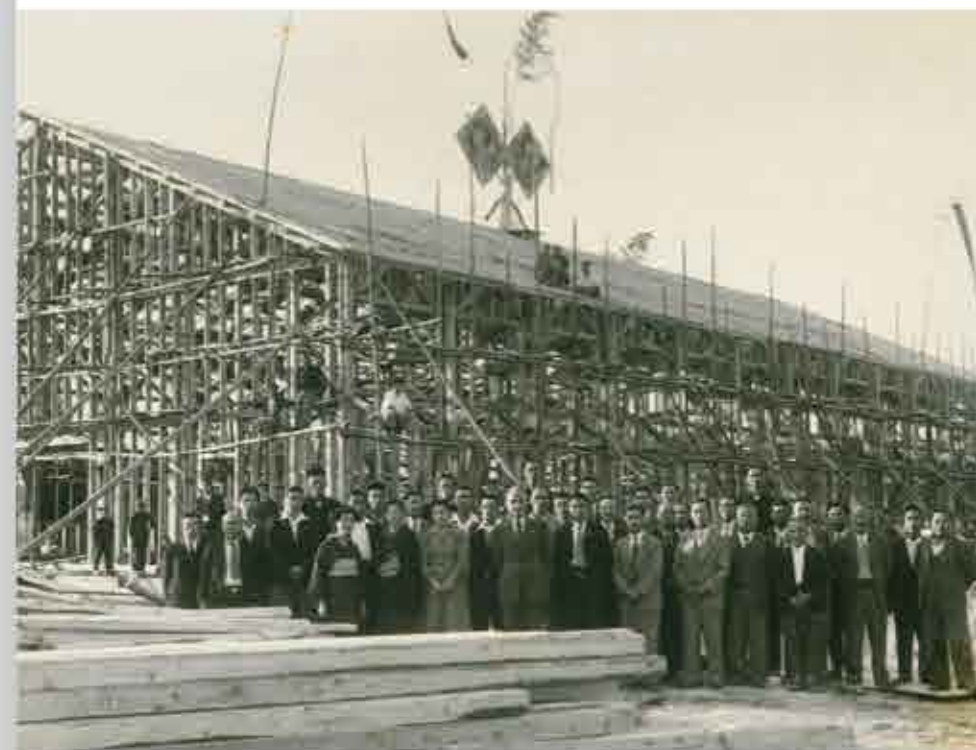
㊦佐々木材木店貯木場で初午祭(虎舞) 昭和20年代



丸か建設のルーツとなる㊦佐々木材木店とサイドカー 昭和10年代



大衡中学校屋内体操場の
上棟記念式
昭和28年12月



中新田中学校上棟式 昭和30年代



初午祭で賑わう旧中新田町西町界隈の街並み
(中嶋忠一撮影)

伝統の初午祭と数々の木造建築



初午祭で西町・田中酒造店での虎舞演舞 昭和30年代
(中嶋忠一撮影)



三軒橋浅勘酒造店の上棟式 昭和37年



西小野田中学校落成式 昭和37年



一男社長(2段目左から2人目) 昭和30年代

創業60周年記念式典

丸か建設の軌跡と思い出のアルバム

chapter
2



創業60周年を共に喜び万歳三喝の三代一男社長と参加者 昭和59年2月



創業60周年記念式典での本間俊一氏の長男
本間俊太郎元宮城県知事



創業60周年記念式典での
本間元知事と伊藤宗一郎元衆議院議長



二代けん社長

創業90周年記念感謝の式



100年企業目指す丸かG「創業90周年記念感謝の式」 平成24年10月

創業60周年、90周年に集う連帯の輪
けん、一男社長の横顔



創業90周年記念写真



スマイルサポーター

大相撲中新田場所



89ERS協賛



炊き出し訓練



商工会永年表彰



野球部

全社一丸、次代へと「大和」の心を繋ぐ



清掃ボランティア・気仙沼野々下海岸



風力観測支援



蔵王ボランティア



ゴルフクラブ



スマイルロード感謝状授与



親睦会旅行



寄付型私募債発行



ツーリングクラブ





【宮城県大崎市】大崎市三本木子育て支援総合施設ひまわり園 平成20年2月竣工



【積水化学工業株式会社】
やくらいガーデンチャペル
平成14年7月竣工



【宮城県加美町】
加美町立中新田中学校 平成18年12月竣工



【宮城県大衡村】
大衡村農産物展示販売施設 平成24年3月竣工



【社会福祉法人大崎市社会福祉協議会】
特別養護老人ホーム「楽々楽館」 平成23年3月竣工



【宮城県大崎広域行政事務組合】加美消防署 平成23年5月竣工

代表 施工作品 建築



【宮城県土佐部】気仙沼地域南郷仮設職員寮 平成25年3月竣工



【宮城県大和町】
大和町宮床中学校屋内運動場 平成25年3月竣工



【宮城県大崎広域行政事務組合】
鳴子消防署岩出山分署 平成25年3月竣工

【国土交通省仙台河川国道事務所】気仙沼国道維持出張所 平成25年8月竣工





【国立大学法人東北大学】東北大学(青葉山3)総合研究棟(農学系) 平成28年8月竣工



【(有)プランニング開】プランニング開オフィス 平成27年3月竣工



【宮城県土木部】石巻市新蛇田地区災害公営住宅 平成27年6月竣工



【社会福祉法人大崎つかのめ福祉会】
大崎キッズイマジン保育園 平成25年9月竣工



【国立大学法人東北大学】
東北大学(川渡2)地球温暖化防止フィールド教育研究施設 平成26年3月竣工



【環境省東北環境事務所】石巻・川のビジターセンター 平成30年1月竣工



【株式会社精工】精工つくば第2工場 平成24年10月竣工



【社会福祉法人大崎市社会福祉協議会】
生活介護施設「元気」 平成28年3月竣工



【宮城県松島町】松島町長田地区避難施設 平成28年3月竣工



【国土交通省仙台河川国道事務所】あ・ら・伊達の道の駅トイレ棟 平成30年3月竣工



【国土交通省仙台河川国道事務所】
登米防災ステーション 平成29年2月竣工



【宮城県土木部】
南三陸志津川西地区災害公営住宅 平成28年12月竣工



【宮城県東松島市】東松島市立鳴瀬桜華小学校 令和3年3月竣工



【宮城県名取市】
名取市増田中学校校舎増築
平成29年11月竣工



【株式会社ほくとう】
株式会社ほくとう古川営業所 令和4年4月竣工



【古川信用組合】
古川信用組合中新田支店 令和4年7月竣工

【宮城県名取市】名取市下増田公民館・下増田児童センター改築 令和5年8月竣工



代 表
施 工 作 品

土木



【日本道路公団東北支社】三陸自動車道利府塩釜インターチェンジ 平成13年1月竣工



【国土交通省仙台河川国道事務所】鳴子管内橋梁補強 平成20年3月竣工



【国土交通省北上川下流河川事務所】
新江合川李坪排水機場樋門新設 平成20年7月竣工



【国土交通省北上川下流河川事務所】
迫川川原小屋砂防堰堤 平成22年12月竣工

【林野庁宮城北部森林管理署】浅布地区Ⅳ(H21)治山工事 平成22年3月竣工



【宮城県】花洲山道路改良
平成13年1月竣工



【宮城県】花川台七草台砂防ダム 平成14年5月竣工



【東北農政局】
鳴瀬川(二期)農業水路事業上川原幹線用水路
平成17年3月竣工





【国土交通省仙台河川国土地事務所】
沢尻橋下部工 平成25年2月竣工



【林野庁仙台森林管理署】
仙台地区第十三治山工事 平成26年12月竣工



【国土交通省北上川下流河川事務所】吉田川鳴瀬管内右岸中流護岸補修 平成25年3月竣工



【環境省東北地方環境事務所】月浜園地整備 平成30年3月竣工

【国土交通省北上川下流河川事務所】北上川下流鍋波地区環境整備 平成22年12月竣工



【国土交通省仙台河川国道事務所】熊田地区道路改良 平成29年3月竣工



【宮城県】手樽地区(復興基盤)手樽5工区区画整理 令和元年5月竣工



【国土交通省仙台河川国道事務所】
古川馬寄地区道路改良 令和2年3月竣工



【国土交通省北上川下流河川事務所】
旧北上川左岸川口地区築堤 令和2年9月竣工



【国土交通省仙台河川国道事務所】
津谷長根地区道路改良 平成31年1月竣工



【国土交通省北上川下流河川事務所】
鳴瀬川多田川中流地区築堤 平成31年3月竣工



【林野庁宮城北部森林管理署】マダラ沢治山 令和元年11月竣工



【東日本高速道路株式会社東北支社道路管理事務所】日本海東北自動車道酒田みなとインターチェンジ 令和2年8月竣工



【林野庁宮城北部森林管理署】沖ノ田海岸第3治山工事
令和2年11月竣工



【林野庁宮城北部森林管理署】砥沢林道(林道専用道)新設改良
令和2年11月竣工



96 【国土交通省北上川下流河川事務所】吉田川上流上舞野西地区河道掘削 令和5年3月竣工



【国土交通省北上川下流河川事務所】旧北上川右岸中央地区築堤外 令和3年9月竣工



【宮城県北部土木事務所】
渋井川堤防補強 令和3年9月竣工



【国土交通省仙台湾河川国道事務所】
大衡北地区道路改良 令和5年3月竣工



【宮城県】
用水対策地区(障害)061号柏木溜池(その2)
平成18年3月竣工



工事成績優秀企業認定書



健康経営認定書



「くるみん」認定書



「女性のチカラ」認証書

あとがき

歴史を刻めば刻むほど古い記憶は薄れていくものです。今や創業当時のことを知る者はおらず、社長が先代や地域の先輩方に教わったことを口伝するのみとなり、記念誌の編集に不安を感じていました。でも、社長の記憶をたどり、写真など古い資料を集め、過去の出来事を想像しながらの編集作業は楽しくもありました。今年31歳になる私にとっては、人生の3倍以上の年月をこの町で生きてきた会社の歴史を振り返る良い機会になりました。

制作にあたり、社員含め丸か建設に関わる皆様にこの会社の最初の100年の歴史を伝えたいと考えました。また、過去を振り返るだけでなく、未来につながるようにと若手社員にもスポットを当てました。

若手社員による座談会では、ただの愚痴や不満ではなく、会社のこと、これからの後輩のことを本気で思っている意見要望が多く出されました。私がしっかり受け止め、応えなければならないものばかりでした。脱帽です。自分の信念・意見を持っている若手社員がいることに嬉しさを感じました。

丸か建設の土台を築いた創業者である曾祖父、若くしてこの世を去った曾祖父の後を継ぎ、周りの方に支えられながら戦時中を乗り越えた曾祖母、戦地から帰り、丸か建設として会社を大きくした祖父、平成不況・度重なる災害を乗り越えた社長である父、ここまで決して平坦な道ではなかったにも関わらず続いてきた100年の道を次の100年へと繋げることが経営者の使命であり、このあとがきが私の決意表明です。

最後となりますが、この記念誌編集にご協力いただきました関係者様、作品掲載に当たりご理解いただきましたお客様、施工に携わって頂いた協力会社様に深く感謝し、ここに厚く御礼申し上げます。

2023年10月

創業100周年記念誌編集委員会 委員長 佐々木 一暢
常務取締役

創業100周年記念誌編集委員会

委員長 佐々木 一暢
委員 三浦 秀範 千葉 裕一
大久保 勝広 早坂 康
堀切 厚周 高橋 悟
今野 まき子 加藤 和志
伊藤 大 佐々木 功真





コーポレートシンボルは三つのテーマをもとに表現構築されています。

1. 創業の精神 2. 人と自然の調和 3. 未来への企業の前進と挑戦

コーポレートシンボルは社名、MARUKA KENSETSU CO.LTD.の頭文字 M.K.C を、大崎平野の主峰 船形山に生息する日本カモシカで表現し、船形山の稜線の上に配置しました。シンボル上部の横線は木材(年輪)をイメージして創業の精神を表現しています。シンボルカラーの青は、希望・未来・誠実さ・前進。そして赤は情熱、企業の挑戦を表しています。



Anniversary - [1924-2024] - 100周年記念誌

丸か建設株式会社

発行 丸か建設株式会社

〒981-4264 宮城県加美郡加美町字赤塚37番地

TEL 0229-63-2101 FAX 0229-63-2102

URL <http://www.maruka-cons.co.jp>

発行日 2023年10月(令和5年)

制作 株式会社ノースジャパンプレス社

〒980-0012 宮城県仙台市青葉区錦町1-10-10-303

TEL 022-224-0124 FAX 022-267-6827